

2022年度 生命科学部 学年暦

前 期	
4月1日(金)～9月15日(木)	
2022年 4月	1日(金) 2～4年生新年度ガイダンス
	2日(土) 新入生オリエンテーション(午前)、 1年生ガイダンス・プレースメント テスト(英語)
	4日(月) 学部入学式(学内)、 健康診断(3年生男子)
	5日(火) 1年生ガイダンス、 健康診断(3年生女子)
	6日(水) 1年生プレースメントテスト (物理・生物、化学)、 1年生キックオフガイダンス、 薬物乱用防止ガイダンス、 1～4年生留年者ガイダンス
	7日(木) 健康診断(1年生男女・4年生男女)、 2～4年生前期授業開始
	7日(木) } 前期選択科目履修申請
	15日(金) }
	8日(金) 前期授業開始(1年生)
	12日(火) 1年生医科ゼミナール開始
14日(木) 1年生分子・応用ゼミナール開始	
6月	6日(月) 教職課程ガイダンス(1年生)
	8日(水) 前期学生大会(午後休講)
7月	20日(水) 前期授業終了
	21日(木) 授業予備日
	22日(金) } 前期試験 (予備日：7月29日、7月30日)
	28日(木) }
8月	8月1日(月) } 学生夏期休暇
	9月14日(水) } (8/5～18 職員一斉休暇) 窓口業務休止
8月	26日(金) 前期定期試験成績発表・追再試験者発表
9月	2日(金) } 前期追・再試験 (予備日：9月9日、12日)
	8日(木) }

後 期	
9月16日(金)～3月31日(金)	
9月	16日(金) 後期授業開始
	21日(水) 前期成績配付
	22日(木) 成績Web発表
	22日(木) } 後期選択科目履修申請
28日(水) }	
10月	8日(土) 父母懇談会(1・3年生対象)、体育祭
	12日(水) 卒論配属説明会(3年生)、
	10月28日(金) } 東葉祭 (準備・片付け日含む)(休講)
10月31日(月) }	
11月	6日(日) 創立記念日
	9日(水) 後期学生大会(午後休講)
12月	9日(金) 卒論研究室配属決定(予定)
	23日(金) 年内授業終了
2023年	12月24日(土) } 学生冬期休暇開始
	1月6日(金) } (12/26～1/5 職員一斉休暇) 窓口業務休止
1月	10日(火) 授業再開、後期月曜日授業日
	16日(月) 後期授業終了
	17日(火) 授業予備日
	18日(水) } 後期定期試験 (予備日：1月26日、27日)
	25日(水) }
2月	7日(火) 後期定期試験成績発表・追再試験者発表(未定)
	13日(月) } 後期追・再試験 (予備日：2月18日、20日)
	17日(金) }
	20日(月) } 卒業論文発表会(4年生)
21日(火) }	
3月	7日(火) 卒業発表
	17日(金) 学位記授与式(府中の森芸術劇場)
	22日(水) 進級発表、転科発表、 成績配付(アドバイザーから)

* 上記スケジュールは変更する場合もある。

学部学生登校禁止日(予定)

10月22日(土)	薬学部・生命科学部AO入試
11月19日(土)、26日(土)	推薦入試
1月14日(土)、15日(日)	大学入学共通テスト
1月30日(月)	薬学部B方式入試
2月2日(木)	生命科学部B-I期入試
2月6日(月)	薬学部S方式入試、生命科学部 B-II期入試
3月9日(木)	生命科学部C方式入試

2022年度 生命科学部 授業日予定表

授業日
 授業予備日
 午後休講
 試験日
 試験予備日
 登校禁止日

4月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7 ^S	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

§ 4月7日(木) 1年生健康診断・授業無し

5月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

6月8日(水) は学生大会のため午後休講

7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 ^S	25 ^S	26	27	28	29	30

* 試験日の一部実習に変更する場合があります。
詳細は別途配布する実習予定表を参照。

8月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12 ^b	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 ^S	24 ^S	25	26	27	28	29

b 10月12日(水) 卒論ガイダンスオンデマンド配信
東葉祭 準備~片付け (10月28日 - 10月31日)
* 10月22日(土) 薬学部・生命科学部AO入試

11月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

11月9日(水) は学生大会のため午後休講
* 11月19日(土) 26日(土) 推薦入試

12月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10 [*]	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

* 1月10日(火) 後期月曜日授業日
* 1月14日(土) 15日(日) 大学入学共通テスト
* 1月30日(月) 薬学部B方式入試
* 試験日の一部実習に変更する場合があります。
詳細は別途配布する実習予定表を参照。

2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

* 2月2日(木) 生命科学部B-I期入試
* 2月6日(月) 薬学部S方式入試、
生命科学部B-II期入試

3月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

* 3月9日(木) 生命科学部C方式入試

曜日別授業コマ数

	月	火	水	木	金
前期	14	14	14 (午前) 13 (午後)	14 (1年のみ13)	14
後期	13 (12+1)	14	14 (午前) 13 (午後)	14	14
通年 (合計)	27 (26+1)	28	28 (午前) 26 (午後)	28 (1年のみ27)	28

【振替授業日】

(後期) 1月10日(火) は月曜日授業日

* 上記スケジュールは変更する場合もある。最新の予定表は以下の本学HPより参照すること。
<https://www.toyaku.ac.jp/lifescience/about/curriculum/syllabus.html>



生命科学部の教育理念と目指すべき学生像

東京薬科大学の生命科学部は、生命科学の発展を目指して、医薬理農工の領域を統合した学部です。生命科学領域の発展を通して、人々の健康や福祉、持続的社会の維持に貢献する人を育てます。

生命科学部には、入学から卒業までの三つの方針があります（※）。皆さんは、そのうちの教育課程編成・実践の方針（カリキュラム・ポリシー）に従って学び、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に従って到達度が評価され、卒業を迎えます。卒業に必要な単位を取得するとともに、ディプロマ・ポリシーに掲げられている次の1～4の力や、5の学科ごとに特徴のある知識・技能を身につけるよう、日頃から心がけて学修に励んでください。そして、人類と生命を慈しむ心と広い視野をもち、生命科学領域において人々の健康や福祉、持続的社会の維持に貢献する人として社会に巣立ってください。

- 1) 課題解決力：課題を解決できる思考力と判断力。
- 2) 協働力：課題の解決を他人と協働して実現できる態度。
- 3) 自己教育力：主体的に学ぶ力と学ぶ態度。
- 4) 国際力：国際人として将来活躍するために必要な基礎的知識、英語力・表現力。
- 5) 分子生命科学科：生命の根源的しくみ、科学および創薬基礎に関わる生命科学分野における基礎的知識と技能。
応用生命科学科：環境・食糧・資源・生命に関わる基礎的知識と技能。
生命医科学科：ヒト疾患の分子機構、予防・治療に関わる基礎的知識と技能。

皆さんの学ぶ生命科学は、細胞や生体物質、遺伝子とその発現などの生命科学のほぼ全ての領域に関連する共通性の高い内容と、それらを展開・応用した様々な領域の内容とがあります。共通性の高い内容やその基礎となる領域の科目が1・2年次に多く配置され、学年とともに専門性を高めていくカリキュラムになっています。3年次では選択科目が多くなり、学科指定選択科目のようにそれぞれの学科の特徴が表れる科目も増えます。皆さんは、上にあげた5つを学修目標とし、自らの将来を見据え、好奇心を軸にして、可能な限り広く深く学んでください。

また、生命科学は実験結果を根拠とする学問です。頭で学ぶだけでなく、学生実習を通して身体で学ぶことは、知識を確実なものとしします。実習で身につ

けた知識や技術は、4年次の卒業論文研究につながります。研究室で教員から直接指導を受けることにより得る研究体験は、課題解決力を磨く最高の機会であり、研究者や技術者に限らず社会のあらゆる分野で活躍する人にとって有益かつ貴重な経験となります。

カリキュラムには、科学を広く学ぶ知識人となるため、また、品格ある社会人としてのヒューマンイズムの精神を育てるため、語学や教養科目が総合科目として配置されています。英語の力は生命科学ではもちろん、今や社会での必須アイテムです。しっかり学んで豊かな人間性を育ててください。

専門科目と総合科目のいずれにも、卒業に不可欠な必修科目と自由に選ぶ選択科目があります。この他に卒業認定には含まれない科目もあります。将来の進路を考慮して教職の免許などの資格を得ることも有意義です。資格取得を目指す人は、該当する科目の履修も検討してみてください。

学修を効果的なものにするために最も大切なことは、自主的に学ぶ態度です。自らの意思で学ぶことです。これまでは言われたことを学ぶだけ、決められたことを覚えるだけだった人も多いかもしれません。知識を得たら（記憶）、それを自分が納得できるものにし（理解）、それをもとに考えたり（展開）、人に伝えたり（発信）することが大切です。この記憶～理解～展開・発信の“知のサイクル”を繰り返していくことで、皆さんは生命科学の専門知識と広い教養を身につけた、社会からも期待される、優れた“人財”に成長することができます。自主的に知識を獲得する習慣を身につけることは、将来の宝になります。また、知のサイクルを持続するためにはそれを支える強靱な体力と精神力を身につけることも大切です。友人や教員との豊かな人間関係を築くことにも心がけ、皆さん全員が、充実した規則正しい、楽しく学ぶ学生生活を送るように願っています。

大学時代を振り返ったときに、4年間は短かったと感じる人は多いことと思います。未来の自分のために、一日一日を大切に過ごしてください。

※ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの詳細は、P.11「三つの方針」を参照してください。

2022年4月

各学科の目標（特徴）

分子生命科学科

生命（いのち）を支える仕組みを学ぶ

くすり・遺伝子・細胞・脳など、生命を支える仕組みを学ぶ。化学や分子生物学などの基礎学問を基盤とした先端科学の研究を通して、科学・技術の発展と社会に貢献できる人を育成する。

応用生命科学科

遺伝子の働きを学び、食とエネルギーの未来を拓く

食品・微生物・エネルギーなど、生物の多様性や生命をはぐくむ環境を学ぶ。生物のチカラを応用する研究を通して、安全・安心な地球を守れる人を育成する。

生命医科学科

がん、免疫疾患、神経疾患など病気の仕組みや再生医療を学ぶ

難病・がんなど病気のしくみや、免疫、再生医療などを学ぶ。生命科学と医療の現場をつなぐような、病気の新たな治療・診断法の開発を目指し、多くの命と健康に貢献できる人を育成する。

生命科学部の教育研究上の目的

生命科学部は、生命科学における教育と研究を通じて、広範囲な専門的知識と応用力を修得し、解決すべき課題に対する適切な研究手法及び企画遂行能力を備える「課題解決能力」を持ち、人類社会に貢献する人材の育成を目的とする。

分子生命科学科の目的

分子生命科学科は、生命現象の本質を分子レベルで解明するための研究と教育を通じて、これらの領域において必要な知識と能力を修得した研究者、技術者及び実務者等の育成に重点を置く。

応用生命科学科の目的

応用生命科学科は、生命と環境との関わりを解明するとともに、生命科学を利用するための研究と教育を通じて、これらの領域において必要な知識と能力を修得した研究者、技術者及び実務者等の育成に重点を置く。

生命医科学科の目的

生命医科学科は、医学・医療分野における生命科学の応用を目指した研究と教育を通じて、これらの領域において必要な知識と能力を修得した研究者、技術者及び実務者等の育成に重点を置く。

「三つの方針」生命科学部

生命科学部の基本理念・目標

生命科学は、生命のしくみを解明し、人類の繁栄に貢献する学問です。生命科学部では、医薬理農工に関連する広い生命科学の教育、生命現象を探求する基盤的研究と医療や健康、食品など生活に密着した応用的研究を推進します。また、いのちを尊重し、国際社会の発展に貢献する人材を育成します。

生命科学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：学士（生命科学）

幅広い生命科学領域の基礎知識および技能と、自らを教育し、他者と協働し、論理的かつ柔軟に未知の課題を解決する能力と態度を持ち、情報を駆使する力とグローバルな視点を身につけた研究者・技術者・実務者等や科学の成果を社会に還元する人材を育成します。生命科学部は各学科が定める基準に到達した学生の卒業を認定し、学位（学士（生命科学））を授与します。

学科別の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

分子生命科学科：

日本及び国際社会において生命科学分野の課題を協働して解決することとともに、進展の著しい生命科学領域や薬科学に関連した領域において、能力的かつ人間的に継続的に成長しつつ科学・技術の発展と社会に貢献できる人材の育成を目指します。そのために基盤となる専門領域の基礎を固めるとともに、主体的に学び、考え、行動する姿勢を身に付け、将来にわたって教養を養い人間力を培うための素地を育てます。こうした分野で、人類の健康と福祉に貢献でき、それらを実現するために自己教育を続ける力を育みます。

具体的には以下の能力を備え、所定の単位を習得した学生には卒業を認定し、学位を授与します。

- 生命の根源的しくみ、化学および創薬基礎に関わる生命科学分野における基礎的知識と技能を身に付けている。
- 課題を解決できる思考力と判断力を身に付けている（課題解決力）。
- 課題の解決を他人と協働して実現できる態度を持っている（協働力）。
- 主体的に学ぶ力と学ぶ態度を身に付けている（自己教育力）。
- 国際人として将来活躍するために必要な基礎的知識、英語力・表現力を身に付けている（国際力）。

「三つの方針」 生命科学部

応用生命科学科：

生命科学を基盤とし、国内及び国際社会における課題を解決するとともに、今後の人類の発展に貢献できる人材を育成します。特に、生命科学に加え、生物利用を指向した農学や工学に関する見識を持ち、“生物の力”を人類の持続的発展や地球環境の保全に役立てることができる人材を育成します。また、社会の変化に対応するために、自ら学ぶ力を育みます。

具体的には以下の能力を備え、所定の単位を習得した学生には卒業を認定し、学位を授与します。

- ・環境・食糧・資源・健康に関わる基礎的知識と技能を身につけている。
- ・環境・食糧・資源・健康に関わる課題を解決できる思考力と判断力を身につけている（課題解決力）。
- ・課題の解決を他者と協働して実現できる技能と態度を持っている（協働力）。
- ・主体的に学ぶ力と態度を身につけている（自己教育力）。
- ・国際人として将来活躍するために必要な基礎的知識、英語力・表現力を身につけている（国際力）。

生命医科学科：

日本及び国際社会において生命科学分野の課題を協働して解決することとともに、基礎的知識と技能を身に付け、生命科学と医療をつなぐ人材の育成を目指します。すなわち、分子生物学・細胞生物学の知識を駆使し、疾患の分子メカニズムの解明および新たな診断・治療法や予防法の開発を目指すことを目的とした分野に様々な立場から関わる人材を育てます。こうした分野で、人類の健康と福祉に貢献でき、それらを実現するために自己教育を続ける力を育みます。

具体的には以下の能力を備え、所定の単位を習得した学生には卒業を認定し、学位を授与します。

- ・ヒト疾患の分子機構、予防・診断・治療に関わる基礎的知識と技能を身に付けている。
- ・課題を解決できる思考力と判断力を身に付けている（課題解決力）。
- ・課題の解決を他人と協働して実現できる態度を身に付けている（協働力）。
- ・主体的に学ぶ力と学ぶ態度を身に付けている（自己教育力）。
- ・国際人として将来活躍するために必要な基礎的知識、英語力・表現力を身に付けている（国際力）。

生命科学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命科学部では、多角的な知識と技術を持ち、課題を協働して解決を図ることのできる人間力と人間知、情報を駆使する力、英語力を含む国際的能力、さらには科学の成果を社会に還元する志を持つ人材育成に取り組みます。そのために、基礎科目と専門科目、応用科目、実習、卒業研究など多角的な知識と技術の修得を目指したカリキュラムを設定します。また、学修の評価は、それぞれの科目において、知識・技能の到達度や、思考力・表現力、さらには主体的学修態度、あるいはその総合評価により行います。

学科別の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

分子生命科学科：

分子生物学や化学などの基礎学問を基盤とした先端科学の研究を背景に、その基礎を身に付けることを主眼とします。薬学分野、医科学分野、応用生命科学分野についても学修できるカリキュラムで、基礎学問を基盤として、科学・技術の発展と社会に貢献できる研究者・技術者・実務者等を育成します。1、2年次は基礎科学を重視し、生命科学や創薬・薬化学の基礎となる領域を必修科目によりしっかり学修します。2、3年次はくすり・遺伝子・細胞・脳など、生命を支えるしくみの知識・技能を修得します。

- ・生命科学の基礎的知識として数学、物理学、生物情報、化学、生物学系の講義を開講します。
- ・生命科学分野を研究するための基礎的技術の修得のために、基礎生命科学実習を開講します。
- ・生命の根源的しくみ、創薬および化学に関わる基礎的知識と技能を取得するために、分子生命科学の専門科目並びに分子生命科学実習を開講します。
- ・課題解決力を身につけるために、分子生命科学ゼミナール、実習、卒業論文研究を開講します。
- ・協働力を身につけるために、生命科学と社会、実習、卒業論文研究を開講します。
- ・自己教育力を身につけるために、分子生命科学ゼミナール、卒業論文研究、卒業研究ゼミナールを開講します。
- ・国際力を身につけるために、情報活用能力、生命倫理、英語、人文科学、その他の総合選択科目を開講します。

応用生命科学科：

生物の力を人類や地球の持続的発展に応用するための先端的な研究を背景に、その基礎を身に付けることを主眼とします。生物利用を指向した農学や工学分野に加え、環境生物学の領域についても学修できるカリキュラムにより、応用生命科学分野の研究者・技術者・実務者等を育成します。生命科学に関する基礎的知識を学修するとともに、環境・食品・資源・健康など、応用生命科学に関連する専門的知識や技術について学びます。

- 生命科学の基礎的知識として数学、物理学、生物情報、化学、生物学系の講義を開講します。
- 生命科学分野を研究するための基礎的技術の修得のために、基礎生命科学実習を開講します。
- 生物の力を応用する学問や技能を取得するために、応用生命科学関連の専門科目並びに応用生命科学実習を開講します。
- 課題解決力を身につけるために、応用生命科学ゼミナール、実習、卒業論文研究を開講します。
- 協働力を身につけるために、生命科学と社会、実習、卒業論文研究を開講します。
- 自己教育力を身につけるために、応用生命科学ゼミナール、卒業論文研究、卒業研究ゼミナールを開講します。
- 国際力を身につけるために、情報活用能力、生命倫理、英語、人文科学、その他の総合選択科目を開講します。

生命医科学科：

基礎医学とその医療への応用領域における先端的な研究を背景に、医科学の基礎を身に付けることを主眼とします。医師臨床研修制度によって基礎・臨床医学分野の研究者が減少している中、豊富な医学的知識を有する研究者・技術者・実務者等を養成することを目指したカリキュラムで、生命科学と医療の現場をつなぐ人材、疾患の新たな診断・治療法、そして、その予防法の開発を目指し人類の健康と福祉に貢献できる人材を育成します。基礎を学修した後、2、3年次では生命医科学領域の必修科目や学科指定選択科目を通して、生活習慣病・がん・難病など病気のしくみや、免疫、再生医療などを学修します。

- 生命科学の基礎的知識として数学、生物情報、化学、生物学系の講義を開講します。
- 生命科学分野を研究するための基礎的技術の修得のために、基礎生命科学実習を開講します。
- ヒト疾患の分子機構、予防・治療に関わる基礎的知識と技能を取得するために、基礎医科学の専門科目並びに生命医科学実習を開講します。
- 課題解決力を身につけるために、生命医科学ゼミナール、実習、卒業論文研究を開講します。
- 協働力を身につけるために、生命科学と社会、実習、卒業論文研究を開講します。
- 自己教育力を身につけるために、生命医科学ゼミナール、卒業論文研究、卒業研究ゼミナールを開講します。
- 国際力を身につけるために、情報活用能力、生命倫理、英語、人文科学、その他の総合選択科目を開講します。

生命科学部の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

生命科学部では生命科学の分野における十分な知識と技能を持ち、人類の福祉と健康に貢献できる豊かな人間性と広い視野を持つ人材を育成するために、以下の能力を有する学生を求めています。

生命科学部の基本理念・目標を理解し、生命科学領域、環境応用生命科学領域および医学・医療領域において研究者・技術者・実務者等として、あるいは科学の成果を還元することにより人類社会に貢献したいという強い意志があり、本学で充実した大学生活を送りたいと考えている学生で、次のような力を持つ人を選抜します。

- 中等教育における学力の3要素（「知識・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」）を修得している。
- 理数系および語学の基礎学力を持っている。
- 社会的レベルでの日本語の基本的理解力を持っている。

分子生命科学科：

化学、分子生物学等を基盤として生命現象の解明や創薬に関する領域に興味のある学生を求めます。

応用生命科学科：

多様な生物・環境・食糧・資源・健康およびそれらの応用分野に興味のある学生を求めます。

生命医科学科：

基礎医学とその医療への応用領域に興味のある学生を求めます。

令和3年4月1日（改正）

東京薬科大学沿革略

1880年(明治13年)	医師藤田正方(文部省属官旧丸岡藩士)が本学の前身・東京薬舗学校を本所区亀沢町(現墨田区)に創立
1886年(明治19年)	大河寛之助らによって神田区美土代町(現千代田区)に薬学講習所(もう一つの本学の前身)が創立される
1888年(明治21年)	東京薬学校と薬学講習所を合併し私立薬学校を設立、下山順一郎初代校長に就任
1917年(大正6年)	専門学校令に基づく東京薬学専門学校を設立。東京薬学校を財団法人化する(私立薬学専門学校 第1号)丹波敬三初代校長兼理事長に就任
1929年(昭和4年)	上野女子薬学校(1931年に東京薬学専門学校女子部に改称)を設立
1949年(昭和24年)	東京薬学専門学校・東京薬学専門学校女子部を併せ、学校教育法に基づく東京薬科大学を設立
1951年(昭和26年)	私立学校法による学校法人東京薬科大学設立認可
1963年(昭和38年)	大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程を設置
1965年(昭和40年)	大学院薬学研究科薬学専攻博士後期課程を設置
1976年(昭和51年)	八王子キャンパスに全学移転 専攻科医療薬学専攻(1年制)設置
1980年(昭和55年)	創立100周年
1994年(平成6年)	生命科学部(分子生命科学科、環境生命科学科)を開設(日本初の生命科学部)研究3号館(生命科学部研究棟)竣工
1998年(平成10年)	第1期生卒業「学士(生命科学)」 大学院生命科学研究科生命科学専攻博士前期課程を設置
2000年(平成12年)	第1期生「修士(生命科学)」誕生 大学院生命科学研究科生命科学専攻博士後期課程を設置
2001年(平成13年)	教育4号館(情報処理教育施設)竣工
2002年(平成14年)	第1期生「博士(生命科学)」誕生
2006年(平成18年)	学校教育法、薬剤師法の改正に基づき薬学部6年制に移行 医療薬学科、医療薬物薬学科、医療衛生薬学科を設置
2007年(平成19年)	生命科学部環境生命科学科を環境ゲノム学科に名称変更 大学基準協会「相互評価・認証評価」認定
2008年(平成20年)	生命科学部に2学科4コース(生命医科学、分子生物学、生態ゲノム学、環境フロンティア化学)制を導入 千代田サテライトキャンパス設置(東京通信病院内)
2010年(平成22年)	大学院薬学研究科薬科学専攻修士課程を設置、学生会館竣工 創立130周年
2011年(平成23年)	研究4号館(130周年記念館)竣工
2012年(平成24年)	大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年制)を設置
2013年(平成25年)	生命科学部生命医科学科を設置、3学科制(分子生命科学科、応用生命科学科、生命医科学科)へ移行
2018年(平成30年)	生命科学部設立25周年
2020年(令和2年)	創立140周年

履修要項

I 履修要項

1 教育制度

本学部における教育制度は、学年制を加味した単位制である。すなわち、1年間に修得した単位数が一定の基準に達しない場合は、次の年次（学年）に進むことができない。

2 授業科目

授業科目は総合科目、専門科目に大別され、各々必修科目および選択科目がある。それぞれの区分の中から規定に従って、決められた単位数を修得しなければならない。なお、この他に卒業要件に算入されない自由科目がある。授業科目の区分およびその履修年次、単位数は、生命科学部課程表（⇒P28～参照）に示してある。

3 授業時間

第 1 時 限	9:10～10:20	第 4 時 限	14:00～15:10
第 2 時 限	10:30～11:40	第 5 時 限	15:20～16:30
第 3 時 限	11:50～13:00	第 6 時 限	16:40～17:50

※ 一部の講義においては上記以外の時間帯で行う。時間割表を確認すること。

4 科目の単位

各科目は原則として前期または後期に開講し、課程表のとおり単位数を認定する。

なお、大学の単位は、1時間の講義に対して2時間の講義時間外学修を前提として考えられている。

5 卒業に必要な単位

4年間以上在籍し、卒業に必要な単位数を修得した者に卒業が認められ、学士（生命科学）の学位が与えられる。卒業するために必要な単位は、総計124単位以上であり、次のように修得されていることが必要である。

■分子生命科学科

	総合科目	専門科目	合計
必修科目	18単位	74単位	92単位
選択科目	12単位以上	20単位以上	32単位以上
合計	30単位以上	94単位以上	124単位以上

■応用生命科学科

	総合科目	専門科目	合計
必修科目	18単位	67単位	85単位
選択科目	12単位以上	27単位以上 (学科指定単位20単位以上を含む)	39単位以上
合計	30単位以上	94単位以上	124単位以上

■生命医科学科

	総合科目	専門科目	合計
必修科目	18単位	75単位	93単位
選択科目	12単位以上	19単位以上 (学科指定単位12単位以上を含む)	31単位以上
合計	30単位以上	94単位以上	124単位以上

6 履修計画と履修申請

履修にあたっては、卒業または進級に必要な単位を考慮して方針を立てる。選択科目については、Webにより、指定された期日に履修申請をする。申請にあたっては慎重に科目を選び、正確に手続きすることが必要である。申請を行なわなかったり申請に誤りがあった場合は、たとえ授業に出席し、その科目の試験を受験しても無効となる。

1) 履修申請についての注意

- 受け付けた申請を変更または履修取り下げする場合は、所定の期間に手続きをすること。
なお、所定の期間を過ぎてからは、履修申請の変更を認めない。
- 過去に認定された科目を再び履修することはできない。
- 特別奨学生候補者は、32単位以上（自由・教職科目を含む）を修得した者が選考対象となるので注意すること（2020年4月選考より採用）。

項目	履修申請について	注意
必修科目	手続き不要	—
選択科目 (自由・教職科目を含む)	要Web申請	必修科目の再履修科目と同じ時限で重複する場合、選択科目は履修できない。
再履修の科目☆	要Web確認 変更時手続き 必要	再履修科目がある学生は、事前に事務課で登録が行われているので、Web履修申請画面で登録状況を確認すること。講義開講時限の重複による履修クラスの変更希望者は、選択科目履修申請期間中に生命科学事務課まで申し出て手続きを行うこと。

※ 在籍年次以外の学年次に開設されている選択科目の履修を希望する留年生は、講義担当者の許可を得た上で「選択科目先取り申請書」を生命科学事務課に所定の期日までに提出すること。2年次科目および3年次科目については、全学科で選択科目となっている科目のみ、先取り履修可。進級予定だった学年より上の学年次に開設されている科目は履修不可。

☆ 「再履修」の定義…P23 参照

2) 履修申請の時期の注意

- 期限を過ぎると申請は受け付けられない。
- 科目によっては、下記以外の申請期間があるので掲示等をよく見ること。
- 選択履修の申請をした学生の員数が、開講可能な人員を超過した場合は、履修を許可しないこともある。

項目	時期	
前期科目	年度始め	指定された期間
通年科目		
後期科目	後期始め	

3) 各種提出書類等の締切について

- 提出締切日時を厳守の上、指定された提出先へ提出すること。

- ・万一、提出締切に間に合わない場合は、事前に生命科学事務課に連絡すること。
- ・締切に遅れた場合は所定の理由書を提出し、教務担当教授等により可否審査を受けることになる。この時、締切後の申請は受理されない場合がある。

4) 履修単位数の上限 (CAP制) について

- ・1年間に履修できる単位数の上限は48単位とする。ただし、教職科目・自由科目・English and Life Sciences in the USA は別とする。

7 試験の方法

各授業科目について、定期試験等により学業成績を考査する。合格した授業科目については、所定の単位の修得を認める。

単位認定に関する試験は、下表に示すものである。通年科目は前期・後期の所定の試験を必ず受験しなければならない。

■ 試験

区 分	内 容	受 験 資 格
定期試験 (前期・後期)	各期末に行う。	授業科目ごとに、授業実施時間数の3分の2以上の出席者。(学則第70条) 注1
追 試 験	定期試験を止むを得ない理由で欠席した者に行う(授業内に試験が実施された場合も同様)。 注2	欠席の理由が正当と認められた者(Webおよび掲示連絡)。 注3
再 試 験	定期試験を受験した結果、再試験を受ける必要のある者に対して行う(授業内に試験が実施された場合も同様)。 注4	当該講義担当者の判断により受験を認められた者(Web連絡)。
その他の試験	レポート等による試験・中間試験等	定期試験に同じ。

注1 **受験停止**：授業出席回数の不足等により受験資格のない学生に対しては掲示等で連絡する。この場合、追試験・再試験の受験資格も失う。

注2 **試験欠席届** (追試験受験許可願)：定期試験を疾病その他止むを得ない理由で欠席した者は、試験期間終了翌日より3日以内(土日祝日および登校禁止日は除く)に、**試験欠席届** (追試験受験許可願)に診断書等の証明書を添付して生命科学事務課に届け出ること。

欠席理由と添付する証明書

理 由	添付する証明書
病 気	医師の診断書、病院・医院の領収書(処方薬の領収書は不可)
忌 引	会葬礼状
災 害(台風、水害、火災等)	官公庁による被災証明書
交通機関	交通機関等の証明書

注3 **追試験**を受験するには、所定の受験手続きを**指定期日**までに行わなければならない。(注2参照) 締切に遅れた場合は所定の理由書を提出し、教務担当教授等により可否審査を受けることになる。この時、締切後の申請は受理されない場合がある。

なお、あらかじめ生協で証紙(次頁参照)を購入し、試験時に解答用紙等に証紙を貼付することとする。

注4 **再試験**は、受験を認められた者のみが受験できる(Web参照)。受験手続きは特に必要ないが、あらかじめ生協で証紙(次頁参照)を購入し、試験時に解答用紙等に証紙を貼付することとする。

注5 試験日当日は、公共交通機関のダイヤの乱れを想定して、時間に余裕を持って早めに登校するように心掛けること。また、試験日当日に、公共交通機関の大幅な遅延や運休が発生した場合は、生命科学事務課に連絡すること(電話番号はP26に記載)。

注6 試験期間中に、不測の事態により、試験時間の繰り下げや試験日の変更をする場合もあるので、試験期間中(予備日も含む)は予定を入れないこと。

注7 追・再試験の追試験は実施しないので(大学が認める感染症による欠席は除く)、期間中は一層の体調管理に努めること。

■ 追・再試験受験料

生協レジ・購買カウンターで受験用証紙を購入

追 試 験	1 科目	500円	再 試 験	1 科目	1,000円
-------	------	------	-------	------	--------

受 験 の 心 得

受験者は下記の事項を守ること

- ・不測の事態（電車遅延等）に備えて早めに登校すること。
- ・すべて試験監督者の指示に従うこと。
- ・指定の場所に着席すること。
- ・学生証は、机上の指定の場所に置くこと。
- ・遅刻者は、試験開始後30分まで入場を認める（但し、終了時間の延長は認めない）。
- ・試験開始から40分経過後は、監督者の許可により、退室をすることができる。
- ・試験開始（問題配布）後に止むを得ない理由で退席する場合は、答案に学生番号・氏名を書いて提出すること。この場合は受験したものとみなし、追試験受験資格はない。
- ・チャイムは鳴らない。
- ・机には学生証・鉛筆・消しゴム・鉛筆削り・特別許可があるもの以外は置いてはいけない。
- ・教科書、参考書、ノート、電卓等の使用が許可されている場合でも、貸借は禁止する。
- ・下敷・計算機つき時計・翻訳機能つき時計（スマートウォッチ等）の使用は禁止する。
- ・スマートフォン・携帯電話・時間確認以外の機能を持つスマートウォッチ等の電源を切ってカバンの中に入れること。
- ・これらがカバンの中以外で発見された場合、不正行為とみなす。
- ・カバンを閉じ椅子の下に置くこと。
- ・答案に学生番号や氏名のないものは無効とする。
- ・白紙の答案でも学生番号と氏名を書き、必ず提出すること。
- ・退場の際は、答案を試験監督者に提出すること。
- ・答案を試験場から持ち出さないこと。
- ・受験中に不正行為が認められた場合には、監督者は直ちに答案を回収し、退場を命ずる。この場合、その期間中の試験は全て無効となり、当該試験期間の追・再試験受験資格もない。
- ・悪天候等不測の事態により日程が変わる場合があるので、試験期間中（予備日を含む）は他の予定を入れないこと。

8 レポート提出

次の事項を厳守すること。

- (1) 提出締切日時を厳守すること。
- (2) 表紙をつけて、科目名、講義担当者名および提出者自身の学年、学科名、学生番号、氏名を明記すること。
- (3) 必ずホチキス等で綴じて提出すること。
- (4) 事務課へ提出する場合は、その旨掲示するのでその指示に従うこと。
- (5) 一度提出したレポートの変更、訂正は認めない。提出前に十分に注意すること。
- (6) 他人のレポートからの盗用を禁止する。また、レポートの代筆は、不正行為とみなす。書物あるい

はインターネットからの引用の場合は、出典を明記すること。

(7)Codexによるレポート提出の場合は、提出方法を確認すること。(P67～68参照)

9 履修認定 (本学部の授業以外における学習)

下記(1)～(14)の資格を既に有するか、在学中に取得した場合は、対応する授業科目を履修したものとみなして単位を認定(評価は「S」となる)もしくは、授業の一部について出席を免除することがある。なお、対象とする基準は年度毎に見直すことがある(学則第70条参照)。

■ 履修認定の該当者

- 講義担当者に申し出ること。
- 生命科学事務課に証明書を提出すること。

資 格			対応する授業科目
(1)	実用英語技能検定試験	1 級	Academic English I, II, III, IV
(2)	TOEIC (IPを含む)	860点以上	
(3)	TOEFL (PBT又はITP)	600点以上*	
(4)	実用英語技能検定試験	準1級	Academic English I, II
(5)	TOEIC (IPを含む)	745点以上	
(6)	TOEFL (PBT又はITP)	570点以上**	
(7)	ドイツ語技能検定	4級以上	ドイツの言語文化
(8)	実用フランス語技能検定	4級以上	フランスの言語文化
(9)	中国語検定試験	4級以上	中国の言語文化
(10)	中国語コミュニケーション能力検定試験	380点以上	
(11)	H S K	3～6級	
(12)	第1種放射線取扱主任者試験	合格者	放射化学および放射線生物影響論
(13)	知的財産管理技能検定	2 級	生命科学知財論
(14)	統計検定	準1級以上	統計学

* TOEFL iBT : 100点以上

** TOEFL iBT : 80点以上

10 学業成績

成績の表示は下表に示す通りである。

成績	合・否等	単位修得・単位未修得
S	合格	該当科目の単位修得
A		
B		
C		
D*	不合格	該当科目の単位未修得
E*	未履修扱い	
P	合格	English and Life Science in the USA の単位修得
R	認定	学則第70条2項による単位修得
K*	試験欠席 (追・再試験後に評価が決定)	定期試験・期間外試験を欠席した場合は、追・再試験前の成績発表時に「K」と表示される。追試験受験を許可された者のみ、追試験を受験することができる。
L*	評価保留 (追・再試験後に評価が決定)	再試験を実施する等により評価が決定する。詳細はP18「 7 試験の方法」を参照すること。

* 成績通知書にのみ反映され、成績証明書には反映されない。

1) 学修成果の評価

成績については、「授業計画」(シラバス)に記載された各科目の「到達目標」に対する到達度に
応じて、以下の通り評価する。

■ 最高評価がSの科目：

S=到達度90%以上、A=到達度80～90%未満、B=到達度70～80%未満、C=到達度60～70%未満、
D=到達度60%未満

■ 最高評価がAの科目：

A=到達度80%以上、B=到達度70～80%未満、C=到達度60～70%未満、D=到達度60%未満

2) 学業成績についての注意

すでに修得した科目について、これを取り消したり再履修によりその評価を変えることはできない。

3) 成績通知書

前期：8月(Web発表) および9月(アドバイザーから配付およびWeb発表)、保証人へ郵送
(9月)

後期：2月(Web発表) および3月(アドバイザーから配付およびWeb発表)、保証人へ郵送
(3月)

11 GPAについて

1) GPAの算出方法

GPA (Grade Point Average) とは、各科目の成績から算出した成績評価値のことである。

GPA対象科目の成績評価を

S = 4点、A = 3点、B = 2点、C = 1点、D = 0点

として評価点に換算し、「評価点に単位数を乗じたものの総和」を「履修したGPA対象科目の単位数の総和」で割ることにより算出する。GPA対象科目の多くは最高評価をS(4点)とするが、一

部に最高評価がA（3点）の科目がある（課程表参照）。

GPAには、学期毎のSemester GPA、年度毎のAcademic-Year GPAと、通算のCumulative GPAがある。Cumulative GPAにおいては、一度不合格となった科目は再履修によって合格した場合でも過去のD評価が累積して算出される。

2) GPAの対象となる科目

GPA対象となる科目は、総合・専門科目（必修・選択科目）のうち、次のものを除く科目である。

生命と倫理、卒論関連科目（生命科学特講、ゼミナール、卒業論文研究）、スポーツ I・II（2013年度入学生のみスポーツ I をGPA対象とする）、English and Life Sciences in the USA。

自由科目や「教職に関する専門科目」（45～49ページ参照）もGPAの対象にならない。また、GPA対象科目であっても成績表にS、A、B、C、D以外の記号で成績が記載されている場合、すなわち、正式な手続きにより履修放棄した科目や、他大学における履修で認定を受けた科目などは、GPAの算出から除外される。

3) GPAの活用法（成績不振者への指導）

- 一部科目についてはGPAを履修の前提とする（生命科学特別演習Ⅱ・Ⅲ）。

12 年次進級の判定

次の基準を満たした場合、進級することができる。

■進級基準（編入学生に関しては別に定める）

1 年次	卒業に必要な単位（1年次では40単位が修得可能）のうち 31単位以上 が修得済みであり、なおかつ 必修科目23単位以上 が修得済みである* ¹ 。また、 基礎生命科学実習 I の単位を修得していること* ² 。
2 年次	卒業に必要な単位（2年次までに75単位が修得可能）のうち 63単位以上 が修得済みであり、なおかつ 分子生命科学科は必修科目49単位以上、応用生命科学科と生命医科学科は必修科目48単位以上 が修得済みである* ¹ 。また、 基礎生命科学実習 II の単位を修得していること* ² 。
3 年次* ⁴	卒業に必要な単位（3年次までに102単位が修得可能）のうち 97単位以上 が修得済みであること* ³ 。

- * 1 1年次の必修科目はいずれの学科も28単位。1～2年次の必修科目は分子生命科学科54単位、応用生命科学科および生命医科学科53単位。
- * 2 実習の単位を修得できなかった場合は、次の年次に進ませないことを原則とするが、教授会の議を経て仮進級させることがある。この場合には追実習によって短期間に単位を修得できることを前提とする。
- * 3 4年次において、卒業要件を満たすために修得する必要がある単位数は27単位以内（編入生は、32単位以内）でなければならない（うち22単位は4年次でのみ履修可能な単位）。
- * 4 編入学生の3年次進級基準
卒業に必要な単位（3年次までに102単位が修得可能）のうち92単位以上が修得済みであること。また、実習科目の全ての単位数を修得していること。

■年次進級の判定についての注意

4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

進級発表：年次進級者は3月下旬にWebおよび掲示で発表される。

13 再履修について

必修科目で未修得科目（単位）を残して進級した者は、次年度以降その科目（単位）を再び履修しなければならない。これを「再履修」という。（P17 ⑥参照）

■ 不合格科目の再履修についての注意

当該年度の選択科目を履修しようとしても、再履修の必修科目が同じ時限で開講されている場合は、再履修科目を優先し、選択科目の履修は認められない。

14 科目別授業内容（シラバス）について

- (1) P83 ～の「授業計画」を参照すること。
- (2) 本学のウェブサイトから閲覧することもできる。
(<https://www.toyaku.ac.jp/lifescience/about/curriculum/syllabus.html>)
- (3) 「課程表」についてはこの冊子のP28 ～を参照すること。
- (4) 授業に関する質問や相談については、別途周知する「オフィスアワー」を確認すること。応対方法、対応可能時間、場所等が掲載されている。

15 転科について

- (1) 学則第78条により、他の学科に転科を希望する場合は、学部長が定める期間に、保証人と学生が連署捺印した転科申請書及び理由書を、生命科学事務課を経て学部長に提出しなければならない。
- (2) 転科の時期は3年次進級時とする。
- (3) 審査は書類審査（1・2年次の成績、理由書等）及び面接を行い、教授会で総合的に判断する。
- (4) 次年度4月1日現在において、別に定める成績および学科の在籍人数の要件を満たすことを条件に許可する。
- (5) 申請方法等詳細は、12月中旬にWebおよび掲示にて知らせる。

※注 転科の資格に関する成績要件は次のとおりとする。

- 2年次修了時において、転科先の学科の進級要件を満たすこと。
- 2年次修了時において、通算GPA「2.30」以上であること。
- 希望者が複数あり、全員の転科を許可することが不可能な場合は、GPA上位者を優先することを原則に調整を行う。

16 大学院飛び入学制度について

3年次までに優秀な成績を修めた学生は、4年から大学院への飛び入学が可能である。

3年次の4月頃、説明会を実施する予定である。

詳細は別途周知する。

17 卒論研究室配属

- (1) 学生の希望をもとにして卒論研究室の配属を決定する。
- (2) 卒論研究室配属についての説明、Web申請は3年次後期に行う。

18 伝達の方法

学生への通知や連絡は、すべて生命科学事務課前の掲示板または東葉学生ポータルによって行う。

1) 学年別（一般）掲示

- 学生への公示、告示、修学上必要な事項の伝達は主として掲示による。

2) 休講掲示

- ・講義担当者より連絡があり次第、掲示板上に掲示する。
- ・休講、補講等については東葉学生ポータルサイトでも通知する。
(本学ホームページ→在学生の方へ→東葉学生ポータル)
- ・授業開始時刻から10分を過ぎても講義担当者から連絡がない場合は、生命科学事務課に問い合わせること。30分過ぎても講義担当者が授業を開始できない場合は休講とし、後日補講を行うこととする。

3) 教職に関する掲示

- ・教職関係掲示板上に掲示するので、一般の掲示板上同様に確認すること。
- ・学年を問わず掲示するので注意すること。

■ 伝達の方法についての注意

掲示の見落としは不利を招くので、登学の際には必ず掲示を見る習慣をつけること。

19 卒業論文研究における基本方針

- (1) 卒業論文研究を行うことは学生の皆さんの権利です。各教員は本権利を尊重し、ディプロマ・ポリシーに基づいて卒業論文研究指導を行います。
- (2) 生命科学特講、ゼミナール、卒業論文研究で20単位が与えられています。
学習時間や出席日数、到達度など規定の基準を達成していることを前提とし、他の科目と同様な単位判定を行います。
- (3) 各教員は学生が希望する進路に進めるように、就職活動・大学院入試と卒業論文研究が両立できるように支援します。

20 悪天候、災害および交通機関が不通の場合の授業措置

暴風雨・雪などの悪天候および災害、公共交通機関の事故等が発生したときの対応は、学長が次の基準に基づき検討する。結果は「生命科学事務課掲示板上」および「東葉学生ポータル（電子掲示板上）」で発表するので、自己判断せずに、必ずいずれかで確認すること。

※下記は、休講措置の判断基準であり、状況により必ずしも下記のとおりに対応とならない場合もある。

1) 気象警報発令

東京23区東部・西部および多摩北部・西部・南部のいずれかに気象警報が発令された場合。

- (1) 午前6時現在において警報が発令されている場合は、午前中開始の授業を休講。
- (2) 午前10時現在において警報が発令されている場合は、終日休講。

2) 大規模地震の警戒宣言発令

大規模地震の警戒宣言が発令された場合。

- (1) 午前6時現在において発令が解除されていない場合は、午前中開始の授業を休講。
- (2) 午前10時現在において発令が解除されていない場合は、終日休講。

3) ストライキ、災害、公共交通機関の事故等

ストライキ、災害、公共交通機関の事故等で、JR中央線（東京－高尾間）または京王線（本線、相模原線）が運休された場合。

- (1) 午前6時現在において運休の場合は、午前中開始の授業を休講。
- (2) 午前10時現在において運休が解除されていない場合は、終日休講。

4) その他

- (1) 上記以外にも、授業実施時間の変更または休講の取扱いをすることがある。

- (2) 定期試験および追・再試験についても、上記基準に準じる。なお、中止となった試験は延期し、後日に実施する。

21 各種証明書発行

	証明書	手数料	発行
学部	在学証明書	300円	自動発行機
	成績証明書 注1	300円	自動発行機
	卒業見込証明書 注2	300円	自動発行機
	卒業証明書	300円	自動発行機
	教職関係証明書	300円	生命科学事務課
	英文証明書 (成績証明書・卒業証明書)	300円	自動発行機
	特殊証明書	300円	生命科学事務課
	調査書	300円	生命科学事務課
大学院	在学証明書	300円	自動発行機
	単位修得証明書	300円	自動発行機
	修了見込証明書	300円	自動発行機
	修了証明書	300円	自動発行機
	英文証明書 (在学・単位修得・修了見込)	300円	自動発行機
	特殊証明書	300円	生命科学事務課

注1 大学院飛び入学生は発行機では発行できないので、生命科学事務課で申請すること。

注2 4年次進級より発行機で発行できる。

注3 発行手数料は改定する場合がある。

1) 証明書自動発行機

学生会館2F (談話室) に設置されている。

稼働時間…平日 8:45～19:00、土曜日 8:45～17:00

* 夏期休暇等、時期によっては使用できないことがある。

稼働時間の変更および発行停止期間等は掲示により通知する。

2) 生命科学事務課より発行するには

(1) 自動発行機にて手数料金額相当の申込書 (証明書交付願) を購入する。

(2) 必要事項を記入して生命科学事務課へ提出する。

* 発行日数

- 通常は申請日より3日後 (土日祝含まず)
- 特殊証明書は申請日より10日後

3) 各種証明書発行についての注意

- (1) 証明書の発行には学生証が必要となる。
- (2) 同一人物であっても、学部および大学院では学生番号が異なるので、それぞれの番号で申請すること。
- (3) 学部卒業後2年間は自動発行機で証明書を発行することができる。
- (4) 自動発行機で発行した証明書の厳封を希望する場合は生命科学事務課へ証明書を持参し申し出ること。

22 個人情報の取り扱いについて

本学においては個人情報保護法に則り、学生等の個人情報を厳正に管理し、大学の教育研究の円滑な推進のために使用しています。

23 欠席について

状 況	提出書類	提出にあたり注意すること	書類提出先
講義・実習等を欠席した場合	欠席届 疾病、その他の理由で欠席した場合 (20日未満)	添付書類：欠席事由を証明できる書類（医師の診断書、病院・医院の領収書（処方薬の領収書は不可）） ・欠席日数が7日未満の場合、速やかに欠席届を提出すること。 ・欠席日数が7日以上の場合、アドバイザーの承諾（署名・捺印）を得て速やかに欠席届を提出すること。 ・大学が指定する感染症（インフルエンザ等）に罹患した場合には、完治してから登校すること。その際に、医師による「登校許可証明書」を保健室へ提出する必要がある。 ※大学のウェブサイトからダウンロードすることができる。 (https://www.toyaku.ac.jp) [トップページ]→[在学生・卒業生の方]→[証明書の発行]→[在学生]→[登校許可証明書] 【備考：実習を欠席する場合】 ・当日までに実習準備室に連絡し指示を受けること。	講義担当者 もしくは 実習担当者
	忌引届 服喪で欠席した場合	・アドバイザーの承諾（署名・捺印）を得て、速やかに忌引届を提出すること。会葬礼状がある場合は合わせて提出すること。 【欠席に算入されない服喪日数】 ①父母：7日以内（土日祝日含む連続した日） ②祖父母・兄弟姉妹：5日以内（土日祝日含む連続した日） ③その他届出により大学が正当と認めた場合（土日祝日含む連続した日） ※父母が亡くなった場合は、学生サポートセンター（042-676-8978）に連絡すること。	
	長期欠席届 (20日以上3ヶ月未満)	・やむを得ず、連続して20日以上3ヶ月未満欠席する場合に提出すること。 ・3ヶ月以上欠席する場合は、「休学願」を生命科学事務課に提出すること。	連絡先 生命科学事務課
定期試験を欠席した場合	試験欠席届（追試験受験許可願） 疾病その他やむを得ない理由で欠席した場合	添付書類：欠席事由を証明できる書類（医師の診断書、病院・医院の領収書（処方薬の領収書は不可）） ・提出期限 試験期間終了翌日より3日以内（土日祝日および登校禁止日を除く）に提出すること。 (⇒詳細はP18㉔参照)	042-676-8781 Emailの場合は大学HPのお問い合わせフォームから。

※ 書面の様式はボールペンで記入すること。

※ 一部はメール提出による届出、アドバイザーによる承諾を許可する場合がある。その場合は東葉学生ポータルで周知する。

24 連絡先

連 絡 先		受付時間
実 習 室	教育 3 号館 G 階実習室 (実習準備室)	TEL. 042-676-5427
	研究 4 号館 1 階実習室 (実習準備室)	TEL. 042-676-5174
生命科学事務課		TEL. 042-676-8763 042-676-8781 042-676-8792 FAX. 042-676-5351
保 健 室		TEL. 042-676-8879
		10:00～17:00 Emailの場合は大学 HPのお問い合わせ フォームから。
		8:45～17:00 Emailの場合は大学 HPのお問い合わせ フォームから。

Ⅱ 生命科学部 課程表 (2017年度～2019年度入学生用)

未開講科目および2020年度新カリキュラムとの科目の振替表は別途掲示する。
新カリキュラム振替科目の開講学期・学年については別途周知する振替科目表を参照すること。

1 分子生命科学科

*…最高評価をAとする科目

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数			
		1年	2年	3年	4年
		前:後	前:後	前:後	前:後
総合科目	分子生命科学ゼミナール*	1			
	生命科学と社会	2			
	地球環境論	1			
	情報科学Ⅰ	1			
	情報科学Ⅱ	1	1		
	Academic EnglishⅠ	2			
	Academic EnglishⅡ	2			
	Academic EnglishⅢ		2		
	Academic EnglishⅣ			2	
	English for ScienceⅠ			1	
	English for ScienceⅡ				1
	生命と倫理*				2
合計		7:3	2:2	1:1	0:2

12科目 18単位

《進級基準・卒業要件について》

課程表の修得した科目をマークし、下記の表に修得済みの単位を記入して、【 】の進級基準・卒業要件を満たすよう留意してください。

	①必修科目	選択科目		進級基準 対象単位数 ①+②(最大12 単位まで加算) +③(最大20 単位まで加算)
		②総合科目	③専門科目	
1年次	【23単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅰの単位を含む)	／12	／20	【31単位以上】
2年次	【49単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅱの単位を含む)	／12	／20	【63単位以上】
3年次		／12	／20	【97単位以上】

	①必修科目	選択科目		合計
		②総合科目	③専門科目	①+②+③
4年次 (卒業)	【92単位】	【12単位以上】	【20単位以上】	【124単位以上】

1年間に履修できる単位数の上限は48単位である(CAP制)。
4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数			
		1年	2年	3年	4年
		前:後	前:後	前:後	前:後
専門科目	数 学 Ⅰ	1			
	数 学 Ⅱ	1	1		
	物 理 学	1			
	生 命 物 理 学		1		
	化 学	1			
	生 物 無 機 化 学		1		
	有 機 化 学 Ⅰ	1			
	有 機 化 学 Ⅱ		1		
	生 物 学	1			
	微 生 物 学		1		
	生 体 物 質 学		1		
	遺 伝 生 化 学		1		
	基礎生命科学演習Ⅰ*	1			
	基礎生命科学演習Ⅱ*		1		
	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)		1		
	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)		1		
	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)		1		
	分子生命科学概論*	1			
	統 計 学		1		
	放 射 化 学		1		
	分 析 化 学		1		
	生 物 有 機 化 学		1		
	代 謝 生 化 学 Ⅰ			1	
	分 子 遺 伝 学		1		
	分 子 細 胞 生 物 学 Ⅰ		1		
	分 子 細 胞 生 物 学 Ⅱ			1	
	生 理 学		1		
	工 能 力 一 反 応 論			1	
	酵 素 学		1		
	代 謝 生 化 学 Ⅱ			1	
	遺 伝 子 制 御 学			1	
	遺 伝 子 工 学 Ⅰ			1	
創 薬 概 論			1		
天 然 医 薬 品 化 学			1		
生 命 科 学 演 習 Ⅰ *		1			
生 命 科 学 演 習 Ⅱ *			1		
基礎生命科学実習Ⅱ			4		
食 品 衛 生 学				2	
神 經 生 物 学 Ⅰ				2	
薬 理 学 概 論				2	
生 物 物 理 学				2	
分 子 生 命 科 学 実 習				6	
生 命 科 学 特 講 *				2	
ゼ ミ ナ ー ル *				2	
卒 業 論 文 研 究 *				16	
合計		7:11	9:13	8:6	20

45科目 74単位

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
総合科目	経済学	2				
	法学(日本国憲法)	2				★
	心理学	2				
	哲学	2				
	教育学	1				
	科学史	2				
	ドイツの言語文化	2				
	フランスの言語文化	2				
	中国の言語文化	2				
	スポーツⅠ*	1				★
	スポーツⅡ*		1			★
	プログラミング基礎		1			
	言語科学概論		2			
	教育原理		2			★
	教育行政学		2			★
	バイオ情報科学			2		
	外国文学			2		
	生命科学知財論			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅰ			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅱ			2		
教育心理学※			2		★	
生命科学と社会(応用演習)			1			
English and Life Sciences in the USA			2		§	
地学			1		★	
生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)			1			
合計		6:14	6:6	7:8	0:2	

25科目 43単位
 12単位以上を取得すること。
 ★：教職課程履修者は必ず履修すること。 §：合否のみ。
 ※「スポーツⅠ」は2013年度入学生のみ最高評価S
 ※教育原理、教育行政学は教職課程履修者のみ受講可。
 ※教育心理学は、教職課程履修者以外で心理学を単位修得したものは受講することはできない。また、2019年度以降入学生の概当科目の単位数は1とする。

自由科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
自由科目	大学英語入門*	1				
	初等数学*	1				
	初等物理学*	1				
	初等化学*	1				
	初等生物学*	1				
	基礎物理学*		1			
	基礎化学*		1			
	言語科学ゼミナール*	1				
	地学実習*			1		★
	生命科学特別演習*			1	1	
インターンシップ*				1	1	
合計		6:2	0:2	1:2		

11科目 13単位 (自由科目の単位は卒業要件に算入されない)
 ★：教職課程履修者は必ず履修すること。

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
専門科目	生態学概論		1			
	解剖学		1			
	応用生物工学		1			
	生活と環境の科学			1		
	植物生理学		1			
	医療計測学		1			
	実験動物学		1			
	応用数学		1			
	免疫学			2		
	感染医科学			2		
	腫瘍医科学			2		
	発生生物学			2		
	遺伝子工学Ⅱ・遺伝子治療学			2		
	応用分析化学Ⅰ			2		
	応用微生物学			2		
	放射線生物影響論			2		
	環境生態学			2		
	環境生理学			2		
	環境工学			2		
	蛋白質工学			2		
	進化系統学			2		
	多様性生物学			2		
	環境毒性学			2		
	応用分析化学Ⅱ			2		
	資源生物学			2		
	産業衛生管理学			2		
	分子病理学			2		
	ゲノム医科学			2		
生命医科学特講			2			
代謝医科学			2			
神経生物学Ⅱ			2			
発生再生医学			2			
炎症医科学			2			
神経薬理学			2			
医薬品合成化学			2			
ケミカルバイオロジー			2			
合計		0:0	4:4	28:28	0:0	

36科目 64単位
 20単位以上を取得すること。学科指定科目なし
 その選択方法については別途定める。

2 応用生命科学科

*…最高評価をAとする科目

履修要項

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数			
		1年	2年	3年	4年
		前:後	前:後	前:後	前:後
総合科目	応用生命科学ゼミナール*	1			
	生命科学と社会	2			
	地球環境論	1			
	情報科学Ⅰ	1			
	情報科学Ⅱ		1		
	Academic EnglishⅠ	2			
	Academic EnglishⅡ		2		
	Academic EnglishⅢ			2	
	Academic EnglishⅣ				1
	English for ScienceⅠ				1
	English for ScienceⅡ				2
生命と倫理*				2	
合計		7:3	2:2	1:1	0:2

12科目 18単位

《進級基準・卒業要件について》

課程表の修得した科目をマークし、下記の表に修得済みの単位を記入して、【 】の進級基準・卒業要件を満たすよう留意してください。

	①必修科目	選択科目			進級基準 対象単位数計 ①+②(最大12単位まで加算)+③(最大20単位まで加算)+④(最大7単位まで加算)
		②総合科目	③専門科目		
			③指定科目 ※20単位を超えた分は、指定外科目の欄に加算すること	④指定外科目	
1年次	【23単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅰの単位を含む)	/ 12	/ 20	/ 7	【31単位以上】
2年次	【48単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅱの単位を含む)	/ 12	/ 20	/ 7	【63単位以上】
3年次		/ 12	/ 20	/ 7	【97単位以上】

	①必修科目	選択科目			合計 ①+②+③
		②総合科目	③専門科目		
			指定科目	指定外科目	
4年次 (卒業)	【85単位】	【12単位以上】	【27単位以上】		【124単位以上】
			【20単位以上】		

1年間に履修できる単位数の上限は48単位である(CAP制)。
4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数			
		1年	2年	3年	4年
		前:後	前:後	前:後	前:後
専門科目	数 学 I	1			
	数 学 II	1			
	物 理 学	1			
	生 命 物 理 学	1			
	化 学	1			
	生 物 無 機 化 学	1			
	有 機 化 学 I	1			
	有 機 化 学 II	1			
	生 物 学	1			
	微 生 物 学	1			
	生 体 物 質 学	1			
	遺 伝 生 化 学	1			
	基礎生命科学演習Ⅰ*	1			
	基礎生命科学演習Ⅱ*	1			
	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)	1			
	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)	1			
	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)	1			
	応用生命科学概論*	1			
	統 計 学		1		
	放 射 化 学		1		
	分 析 化 学		1		
	生 物 有 機 化 学		1		
	代 謝 生 化 学 I			1	
	分 子 遺 伝 学			1	
	分 子 細 胞 生 物 学 I			1	
	分 子 細 胞 生 物 学 II			1	
	生 理 学			1	
	エ ネ ル ギ ー 反 応 論			1	
	酵 素 学			1	
	代 謝 生 化 学 II			1	
	遺 伝 子 制 御 学			1	
	遺 伝 子 工 学 I			1	
	生 態 学 概 論			1	
生 命 科 学 演 習 I *		1			
生 命 科 学 演 習 II *			1		
基礎生命科学実習Ⅱ			4		
食 品 衛 生 学				2	
応用生命科学実習				6	
生 命 科 学 特 講 *				2	
ゼ ミ ナ ー ル *				2	
卒 業 論 文 研 究 *				16	
合計		7:11	9:12	2:6	20

41科目 67単位

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
総合科目	経済学	2				
	法学(日本国憲法)	2				★
	心理学	2				
	哲学	2				
	教育学	1				
	科学史	2				
	ドイツの言語文化	2				
	フランスの言語文化	2				
	中国の言語文化	2				
	スポーツⅠ*	1				★
	スポーツⅡ*		1			★
	プログラミング基礎		1			
	言語科学概論		2			
	教育原理		2			★
	教育行政学		2			★
	バイオ情報科学			2		
	外国文学			2		
	生命科学知財論			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅰ			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅱ			2		
教育心理学※		2			★	
生命科学と社会(応用演習)		1				
English and Life Sciences in the USA			2		§	
地学		1			★	
生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)		1				
合計		6:14	6:6	7:8	0:2	

25科目 43単位

12単位以上を取得すること。

★：教職課程履修者は必ず履修すること。 §：合否のみ。

※「スポーツⅠ」は2013年度入学生のみ最高評価S

※教育原理、教育行政学は教職課程履修者のみ受講可。

※教育心理学は、教職課程履修者以外で心理学を単位修得したものは受講することはできない。また、2019年度以降入学生の概当科目の単位数は1とする。

自由科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
自由科目	大学英語入門*	1				
	初等数学*	1				
	初等物理学*	1				
	初等化学*	1				
	初等生物学*	1				
	基礎物理学*		1			
	基礎化学*		1			
	言語科学ゼミナール*	1				
	地学実習*		1			★
	生命科学特別演習*		1	1		
インターンシップ*			1	1		
合計		6:2	0:2	1:2	0:0	

11科目 13単位 (自由科目の単位は卒業要件に算入されない)

★：教職課程履修者は必ず履修すること。

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				判読 応用
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
専門科目	創薬概論		1			
	天然医薬品化学		1			
	解剖学	1				△
	応用生物工学		1			△
	生活と環境の科学		1			△
	植物生理学	1				△
	医療計測学		1			
	実験動物学	1				
	応用数学	1				
	神経生物学Ⅰ			2		△
	薬理学概論			2		△
	生物物理学			2		△
	免疫学			2		
	感染症科学			2		
	腫瘍医科学			2		
	発生生物学			2		△
	遺伝子工学Ⅱ・遺伝子治療学			2		△
	応用分析化学Ⅰ			2		△
	応用微生物学			2		△
	放射線生物影響論			2		△
	環境生態学			2		△
	環境生理学			2		△
	環境工学			2		△
	蛋白質工学			2		△
	進化系統学			2		△
	多様性生物学			2		△
	環境毒性学			2		△
	応用分析化学Ⅱ			2		△
	資源生物学			2		△
	産業衛生管理学			2		△
分子病理学			2			
ゲノム医科学			2			
生命医科学特講			2			
代謝医科学			2			
神経生物学Ⅱ			2			
発生再生医学			2			
炎症医科学			2			
神経薬理学			2			
医薬品合成化学			2			
ケミカルバイオロジー			2			
合計		0:0	4:5	34:28	0:0	

40科目 71単位

△：応用生命科学科指定選択科目

学科指定科目(△)40単位のうち20単位以上を含む、27単位以上を取得すること。

その選択方法については別途定める。

3 生命医科学科

*…最高評価をAとする科目

履修要項

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数			
		1年	2年	3年	4年
		前:後	前:後	前:後	前:後
総合科目	生命医科学ゼミナール*	1			
	生命科学と社会	2			
	地球環境論	1			
	情報科学Ⅰ	1			
	情報科学Ⅱ		1		
	Academic EnglishⅠ	2			
	Academic EnglishⅡ		2		
	Academic EnglishⅢ			2	
	Academic EnglishⅣ				1
	English for ScienceⅠ				1
	English for ScienceⅡ				2
生命と倫理*				2	
合計		7:3	2:2	1:1	0:2

12科目 18単位

《進級基準・卒業要件について》

課程表の修得した科目をマークし、下記の表に修得済みの単位を記入して、【 】の進級基準・卒業要件を満たすよう留意してください。

	①必修科目	選択科目			進級基準 対象単位数 ①+②(最大12単位まで加算)+③(最大12単位まで加算)+④(最大7単位まで加算)
		②総合科目	③専門科目		
			③指定科目 ※12単位を超えた分は、指定 外科目の欄に加算すること	④指定外 科目	
1年次	【23単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅰの単位を含む)	／12	／12	／7	【31単位以上】
2年次	【48単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅱの単位を含む)	／12	／12	／7	【63単位以上】
3年次		／12	／12	／7	【97単位以上】

	①必修科目	選択科目			合計 ①+②+③
		②総合科目	③専門科目		
			指定科目	指定外科目	
4年次 (卒業)	【93単位】	【12単位以上】	【19単位以上】		【124単位以上】

1年間に履修できる単位数の上限は48単位である(CAP制)。
4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数			
		1年	2年	3年	4年
		前:後	前:後	前:後	前:後
専門科目	数 学 I	1			
	数 学 II		1		
	物 理 学	1			
	生 命 物 理 学		1		
	化 学	1			
	生 物 無 機 化 学		1		
	有 機 化 学 I	1			
	有 機 化 学 II		1		
	生 物 学	1			
	微 生 物 学		1		
	生 体 物 質 学		1		
	遺 伝 生 化 学		1		
	基礎生命科学演習Ⅰ*	1			
	基礎生命科学演習Ⅱ*		1		
	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)		1		
	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)		1		
	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)		1		
	生 命 医 科 学 概 論*	1			
	統 計 学		1		
	放 射 化 学		1		
	分 析 化 学		1		
	生 物 有 機 化 学		1		
	医 科 生 化 学 I			1	
	分 子 遺 伝 学		1		
	分 子 細 胞 生 物 学 I		1		
	分 子 細 胞 生 物 学 II			1	
	生 理 学		1		
	エ ネ ル ギ ー 反 応 論			1	
	酵 素 学		1		
	医 科 生 化 学 II			1	
	遺 伝 子 制 御 学			1	
	遺 伝 子 工 学 I			1	
解 剖 学		1			
生 命 科 学 演 習 I*		1			
生 命 科 学 演 習 II*			1		
基礎生命科学実習Ⅱ			4		
発 生 生 物 学				2	
神 経 生 物 学 I				2	
免 疫 学			2		
感 染 医 科 学				2	
腫 瘍 医 科 学				2	
生 命 医 科 学 実 習				6	
生 命 科 学 特 講*				2	
ゼ ミ ナ ー ル*				2	
卒 業 論 文 研 究*				16	
合計		7:11	10:11	6:10	20

45科目 75単位

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
総合科目	経済学	2				
	法学(日本国憲法)	2				★
	心理学	2				
	哲学	2				
	教育学	1				
	科学史	2				
	ドイツの言語文化	2				
	フランスの言語文化	2				
	中国の言語文化	2				
	スポーツⅠ*	1				★
	スポーツⅡ*		1			★
	プログラミング基礎		1			
	言語科学概論		2			
	教育原理		2			★
	教育行政学		2			★
	バイオ情報科学			2		
	外国文学			2		
	生命科学知財論			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅰ			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅱ			2		
教育心理学※			2		★	
生命科学と社会(応用演習)			1			
English and Life Sciences in the USA			2		§	
地学			1		★	
生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)			1			
合計		6:14	6:6	7:8	0:2	

25科目 43単位

12単位以上を取得すること。

★：教職課程履修者は必ず履修すること。 §：合否のみ。

※「スポーツⅠ」は2013年度入学生のみ最高評価S

※教育原理、教育行政学は教職課程履修者のみ受講可。

※教育心理学は、教職課程履修者以外で心理学を単位修得したものは受講することはできない。また、2019年度以降入学生の概当科目の単位数は1とする。

自由科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
自由科目	大学英語入門*	1				
	初等数学*	1				
	初等物理学*	1				
	初等化学*	1				
	初等生物学*	1				
	基礎物理学*		1			
	基礎化学*		1			
	言語科学ゼミナール*	1				
	地学実習*			1		★
	生命科学特別演習*			1	1	
インターンシップ*			1	1		
合計		6:2	0:2	1:2	0:0	

11科目 13単位 (自由科目の単位は卒業要件に算入されない)

★：教職課程履修者は必ず履修すること。

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				判読 医科
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
専門科目	創薬概論		1			▲
	天然医薬品化学		1			▲
	生態学概論		1			
	応用生物工学		1			
	生活と環境の科学		1			
	植物生理学	1				
	医療計測学		1			▲
	実験動物学		1			▲
	応用数学		1			
	薬理学概論			2		▲
	生物物理学			2		
	食品衛生学			2		
	遺伝子工学Ⅱ・遺伝子治療学			2		▲
	応用分析化学Ⅰ			2		
	応用微生物学			2		
	放射線生物影響論			2		
	環境生態学			2		
	環境生理学			2		
	環境工学			2		
	蛋白質工学			2		
	進化系統学			2		
	多様性生物学			2		
	環境毒性学			2		
	応用分析化学Ⅱ			2		
	資源生物学			2		
	産業衛生管理学			2		
分子病理学			2		▲	
ゲノム医科学			2		▲	
生命医科学特講			2		▲	
代謝医科学			2		▲	
神経生物学Ⅱ			2		▲	
発生再生医学			2		▲	
炎症医科学			2		▲	
神経薬理学			2		▲	
医薬品合成化学			2			
ケミカルバイオロジー			2			
合計		0:0	3:6	30:24	0:0	

36科目 63単位

▲：生命医科学科指定選択科目

学科指定科目(▲)24単位のうち12単位以上を含む、19単位以上を取得すること。

その選択方法については別途定める。

Ⅲ 生命科学部 課程表 (2013年度～2016年度入学生用)

履修要項

未開講科目および2020年度新カリキュラムとの科目の振替表は別途掲示する。

新カリキュラム振替科目の開講学期・学年については別途周知する振替科目表を参照すること。

*…最高評価をAとする科目

1 分子生命科学科

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数							
		1年	2年	3年	4年				
		前	後	前	後				
総合科目	分子生命科学ゼミナール*	1							
	生命科学と社会	2							
	地球環境論	1							
	情報科学Ⅰ	1							
	情報科学Ⅱ		1						
	Academic EnglishⅠ	2							
	Academic EnglishⅡ		2						
	Academic EnglishⅢ			2					
	Academic EnglishⅣ				2				
	English for ScienceⅠ			1					
	English for ScienceⅡ				1				
	生命と倫理*				2				
合計		7	3	2	2	1	1	0	2

12科目 18単位

《進級基準・卒業要件について》

課程表の修得した科目をマークし、下記の表に修得済みの単位を記入して、【 】の進級基準・卒業要件を満たすよう留意してください。

	①必修科目	選択科目		進級基準 対象単位数計 ①+②(最大12 単位まで加算) +③(最大20 単位まで加算)
		②総合科目	③専門科目	
1年次	[23単位以上] (基礎生命科学実習Ⅰの単位を含む)	／12	／20	[31単位以上]
2年次	[49単位以上] (基礎生命科学実習Ⅱの単位を含む)	／12	／20	[63単位以上]
3年次		／12	／20	[97単位以上]

	①必修科目	選択科目		合計 ①+②+③
		②総合科目	③専門科目	
4年次 (卒業)	[92単位]	[12単位以上]	[20単位以上]	[124単位以上]

1年間に履修できる単位数の上限は48単位である(CAP制)。

4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数						
		1年	2年	3年	4年			
		前	後	前	後			
専門科目	数 学 Ⅰ	1						
	数 学 Ⅱ		1					
	生命物理学Ⅰ	1						
	生命物理学Ⅱ		1					
	無機化学	1						
	生物無機化学		1					
	有機化学Ⅰ	1						
	有機化学Ⅱ		1					
	生 物 学	1						
	微生物学		1					
	生体物質学		1					
	遺伝生化学		1					
	基礎生命科学演習Ⅰ*	1						
	基礎生命科学演習Ⅱ*		1					
	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)		1					
	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)		1					
	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)		1					
	分子生命科学概論*	1						
	統 計 学			1				
	放射化学			1				
	分析化学			1				
	生物有機化学			1				
	代謝生化学Ⅰ				1			
	分子遺伝学			1				
	分子細胞生物学Ⅰ			1				
	分子細胞生物学Ⅱ				1			
	生 理 学			1				
	エネルギー反応論				1			
	酵 素 学			1				
	代謝生化学Ⅱ				1			
	遺伝子制御学				1			
	遺伝子工学Ⅰ				1			
創 薬 概 論				1				
天然医薬品化学				1				
生命科学演習Ⅰ*		1						
生命科学演習Ⅱ*			1					
基礎生命科学実習Ⅱ			4					
食品衛生学				2				
神経生物学Ⅰ				2				
薬理学概論				2				
生物物理学				2				
分子生命科学実習				6				
生命科学特講*				2				
ゼミナール*				2				
卒業論文研究*				16				
合計		7	11	9	13	8	6	20

45科目 74単位

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
総合科目	経済学	2				
	法学(日本国憲法)	2				★
	心理学	2				
	哲学	2				
	ドイツの言語文化	2				
	フランスの言語文化	2				
	中国の言語文化	2				
	スポーツⅠ*	1				★
	スポーツⅡ*		1			★
	プログラミング基礎		1			
	言語科学概論		2			
	バイオ情報科学			2		
	外国文学			2		
	生命科学知財論			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅰ			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅱ			2		
	教育心理学※			2		★
	生命科学と社会(応用演習)			1		☆
	English and Life Sciences in the USA			2		§
地学			1		★	
合計		7:12	4:3	9:6	2:0	

21科目 37単位

12単位以上を取得すること。

★：教職課程履修者は必ず履修すること。

☆：2016年度以前入学生は自由科目

§：合否のみ。

※「スポーツⅠ」は2013年度入学生のみ最高評価 S

※教育心理学は2016年度以降入学生のみ選択総合とする。

※教育心理学は、教職課程履修者以外で心理学を単位修得したものは受講することはできない。

自由科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
自由科目	大学英語入門*	1				
	初等数学*	1				
	初等物理学*	1				
	初等化学*	1				
	初等生物学*	1				
	基礎物理学*		1			★
	基礎化学*		1			★
	言語科学ゼミナール*	1				
	地学実習*			1		★
	生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)*			1		
	生命科学特別演習*			1	1	
	インターンシップ*				1	1
合計		6:2	0:3	1:2		

12科目 14単位 (自由科目の単位は卒業要件に算入されない)

★：教職課程履修者は必ず履修すること。

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
専門科目	生態学概論		1			
	解剖学		1			
	応用生物工学		1			
	生活と環境の科学		1			
	植物生理学		1			
	医療計測学		1			
	実験動物学		1			
	応用数学		1			
	免疫学			2		
	感染医科学			2		
	腫瘍医科学			2		
	発生生物学			2		
	遺伝子工学Ⅱ・遺伝子治療学			2		
	応用分析化学Ⅰ			2		
	応用微生物学			2		
	放射線生物影響論			2		
	環境生態学			2		
	環境生理学			2		
	環境工学			2		
	蛋白質工学			2		
	進化系統学			2		
	多様性生物学			2		
	環境毒性学			2		
	応用分析化学Ⅱ			2		
	資源生物学			2		
	産業衛生管理学			2		
	分子病理学			2		
	ゲノム医科学			2		
生命医科学特講			2			
代謝医科学			2			
神経生物学Ⅱ			2			
発生再生医学			2			
炎症医科学			2			
神経薬理学			2			
医薬品合成化学			2			
ケミカルバイオロジー			2			
合計		0:0	4:4	28:28	0:0	

36科目 64単位

20単位以上を取得すること。学科指定科目なし

その選択方法については別途定める。

2 応用生命科学科

*…最高評価をAとする科目

履修要項

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数							
		1年		2年		3年		4年	
		前	後	前	後	前	後	前	後
総合科目	応用生命科学ゼミナール*	1							
	生命科学と社会	2							
	地球環境論	1							
	情報科学Ⅰ	1							
	情報科学Ⅱ		1						
	Academic EnglishⅠ	2							
	Academic EnglishⅡ		2						
	Academic EnglishⅢ			2					
	Academic EnglishⅣ				2				
	English for ScienceⅠ					1			
	English for ScienceⅡ						1		
生命と倫理*								2	
合計		7	3	2	2	1	1	0	2

12科目 18単位

《進級基準・卒業要件について》

課程表の修得した科目をマークし、下記の表に修得済みの単位を記入して、【 】の進級基準・卒業要件を満たすよう留意してください。

	①必修科目	選択科目			進級基準 対象単位数計 ①+②(最大 12単位まで加算) +③(最大 20単位まで加算) +④ (最大7単位 まで加算)
		②総合科目	③専門科目		
			③指定科目 ※20単位を超えた分は、指定 外科目の欄に加算すること	④指定外 科目	
1年次	[23単位以上] (基礎生命科学実習Ⅰの単位を含む)	／12	／20	／7	[31単位以上]
2年次	[48単位以上] (基礎生命科学実習Ⅱの単位を含む)	／12	／20	／7	[63単位以上]
3年次		／12	／20	／7	[97単位以上]

	①必修科目	選択科目			合計 ①+②+③
		②総合科目	③専門科目		
			指定科目	指定外科目	
4年次 (卒業)	[85単位]	[12単位以上]	[20単位以上]		[124単位以上]
			[27単位以上]		

1年間に履修できる単位数の上限は48単位である(CAP制)。

4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数							
		1年		2年		3年		4年	
		前	後	前	後	前	後	前	後
専門科目	数学Ⅰ	1							
	数学Ⅱ		1						
	生命物理学Ⅰ	1							
	生命物理学Ⅱ		1						
	無機化学	1							
	生物無機化学		1						
	有機化学Ⅰ	1							
	有機化学Ⅱ		1						
	生物学	1							
	微生物学		1						
	生体物質学		1						
	遺伝生化学		1						
	基礎生命科学演習Ⅰ*	1							
	基礎生命科学演習Ⅱ*		1						
	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)		1						
	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)		1						
	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)		1						
	応用生命科学概論*	1							
	統計学			1					
	放射化学			1					
	分析化学			1					
	生物有機化学			1					
	代謝生化学Ⅰ				1				
	分子遺伝学				1				
	分子細胞生物学Ⅰ				1				
	分子細胞生物学Ⅱ					1			
	生理学				1				
	エネルギー反応論					1			
	酵素学				1				
	代謝生化学Ⅱ					1			
	遺伝子制御学					1			
	遺伝子工学Ⅰ					1			
生態学概論					1				
生命科学演習Ⅰ*		1							
生命科学演習Ⅱ*			1						
基礎生命科学実習Ⅱ				4					
食品衛生学					2				
応用生命科学実習						6			
生命科学特講*								2	
ゼミナール*								2	
卒業論文研究*								16	
合計		7	11	9	12	2	6	20	

41科目 67単位

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
総合科目	経済学	2				
	法学(日本国憲法)	2				★
	心理学	2				
	哲学	2				
	科学史	2				
	ドイツの言語文化	2				
	フランスの言語文化	2				
	中国の言語文化	2				
	スポーツⅠ*	1				★
	スポーツⅡ*		1			★
	プログラミング基礎		1			
	言語科学概論		2			
	バイオ情報科学			2		
	外国文学			2		
	生命科学知財論			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅰ			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅱ			2		
	教育心理学※			2		★
生命科学と社会(応用演習)			1		☆	
English and Life Sciences in the USA			2		§	
地学		1			★	
合計		7:12	4:3	9:6	2:0	

21科目 37単位
 12単位以上を取得すること。
 ★：教職課程履修者は必ず履修すること。
 ☆：2016年度以前入学生は自由科目
 §：合否のみ。
 ※「スポーツⅠ」は2013年度入学生のみ最高評価 S
 ※教育心理学は2016年度以降入学生のみ選択総合とする。
 ※教育心理学は、教職課程履修者以外で心理学を単位修得したものは受講することはできない。

自由科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
自由科目	大学英語入門*	1				
	初等数学*	1				
	初等物理学*	1				
	初等化学*	1				
	初等生物学*	1				
	基礎物理学*		1			★
	基礎化学*		1			★
	言語科学ゼミナール*	1				
	地学実習*			1		★
	生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)*			1		
	生命科学特別演習*			1	1	
インターンシップ*				1	1	
合計		6:2	0:3	1:2	0:0	

12科目 14単位 (自由科目の単位は卒業要件に算入されない)
 ★：教職課程履修者は必ず履修すること。

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				判読 応用
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
専門科目	創薬概論		1			
	天然医薬品化学		1			
	解剖学	1				△
	応用生物工学		1			△
	生活と環境の科学		1			△
	植物生理学	1				△
	医療計測学		1			
	実験動物学	1				
	応用数学	1				
	神経生物学Ⅰ			2		△
	薬理学概論			2		△
	生物物理学			2		△
	免疫疫学			2		
	感染症科学			2		
	腫瘍医科学			2		
	発生生物学			2		△
	遺伝子工学Ⅱ・遺伝子治療学			2		△
	応用分析化学Ⅰ			2		△
	応用微生物学			2		△
	放射線生物影響論			2		△
	環境生態学			2		△
	環境生理学			2		△
	環境工学			2		△
	蛋白質工学			2		△
	進化系統学			2		△
	多様性生物学			2		△
	環境毒性学			2		△
	応用分析化学Ⅱ			2		△
	資源生物学			2		△
	産業衛生管理学			2		△
	分子病理学			2		
	ゲノム医科学			2		
生命医科学特講			2			
代謝医科学			2			
神経生物学Ⅱ			2			
発生再生医学			2			
炎症医科学			2			
神経薬理学			2			
医薬品合成化学			2			
ケミカルバイオロジー			2			
合計		0:0	4:5	34:28	0:0	

40科目 71単位
 △：応用生命科学科指定選択科目
 学科指定科目(△) 40単位のうち20単位以上を含む、27単位以上を取得すること。
 その選択方法については別途定める。

3 生命医科学科

*…最高評価をAとする科目

履修要項

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数							
		1年		2年		3年		4年	
		前	後	前	後	前	後	前	後
総合科目	生命医科学ゼミナール*	1							
	生命科学と社会	2							
	地球環境論	1							
	情報科学Ⅰ	1							
	情報科学Ⅱ		1						
	Academic EnglishⅠ	2							
	Academic EnglishⅡ		2						
	Academic EnglishⅢ			2					
	Academic EnglishⅣ				2				
	English for ScienceⅠ				1				
	English for ScienceⅡ					1			
生命と倫理*								2	
合計		7	3	2	2	1	1	0	2

12科目 18単位

《進級基準・卒業要件について》

課程表の修得した科目をマークし、下記の表に修得済みの単位を記入して、【 】の進級基準・卒業要件を満たすよう留意してください。

	①必修科目	選択科目			進級基準 対象単位数計 ①+②(最大12単位まで加算)+③(最大12単位まで加算)+④(最大7単位まで加算)
		②総合科目	③専門科目		
			③指定科目 ※12単位を超えた分は、指定外科目の欄に加算すること	④指定外科目	
1年次	【23単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅰの単位を含む)	／12	／12	／7	【31単位以上】
2年次	【48単位以上】 (基礎生命科学実習Ⅱの単位を含む)	／12	／12	／7	【63単位以上】
3年次		／12	／12	／7	【97単位以上】

	①必修科目	選択科目			合計 ①+②+③
		②総合科目	③専門科目		
			指定科目	指定外科目	
4年次 (卒業)	【93単位】	【12単位以上】	【19単位以上】		【124単位以上】
		【12単位以上】	【19単位以上】		【124単位以上】

1年間に履修できる単位数の上限は48単位である(CAP制)。
4年次は、卒業論文に全力を尽くせるよう、3年次までに計画的に履修すること。

必修科目

区分	授業科目	学年次・単位数							
		1年		2年		3年		4年	
		前	後	前	後	前	後	前	後
専門科目	数学Ⅰ	1							
	数学Ⅱ		1						
	生命物理学Ⅰ	1							
	生命物理学Ⅱ		1						
	無機化学	1							
	生物無機化学		1						
	有機化学Ⅰ	1							
	有機化学Ⅱ		1						
	生物学	1							
	微生物学		1						
	生体物質学		1						
	遺伝生化学		1						
	基礎生命科学演習Ⅰ*	1							
	基礎生命科学演習Ⅱ*		1						
	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)		1						
	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)		1						
	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)		1						
	生命医科学概論*	1							
	統計学			1					
	放射化学			1					
	分析化学			1					
	生物有機化学			1					
	医科生化学Ⅰ				1				
	分子遺伝学				1				
	分子細胞生物学Ⅰ				1				
	分子細胞生物学Ⅱ					1			
	生理学			1					
	エネルギー反応論				1				
	酵素			1					
	医科生化学Ⅱ				1				
	遺伝子制御学				1				
	遺伝子工学Ⅰ				1				
	解剖学			1					
生命科学演習Ⅰ*		1							
生命科学演習Ⅱ*			1						
基礎生命科学実習Ⅱ				4					
発生生物学					2				
神経生物学Ⅰ					2				
免疫疫学					2				
感染医科学						2			
腫瘍医科学						2			
生命医科学実習						6			
生命科学特講*							2		
ゼミナール*							2		
卒業論文研究*								16	
合計		7	11	10	11	6	10	20	

45科目 75単位

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
総合科目	経済学	2				
	法学(日本国憲法)	2				★
	心理学	2				
	哲学	2				
	科学史	2				
	ドイツの言語文化	2				
	フランスの言語文化	2				
	中国の言語文化	2				
	スポーツⅠ*	1				★
	スポーツⅡ*		1			★
	プログラミング基礎		1			
	言語科学概論		2			
	バイオ情報科学			2		
	外国文学			2		
	生命科学知財論			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅰ			2		
	言語とコミュニケーション論Ⅱ			2		
	教育心理学※			2		★
	生命科学と社会(応用演習)			1		☆
English and Life Sciences in the USA			2		S	
地学			1		★	
合計		7:12	4:3	9:6	0:0	

21科目 37単位

12単位以上を取得すること。

★：教職課程履修者は必ず履修すること。

☆：2016年度以前入学生は自由科目

S：合否のみ。

※「スポーツⅠ」は2013年度入学生のみ最高評価 S

※教育心理学は2016年度以降入学生のみ選択総合とする。

※教育心理学は、教職課程履修者以外で心理学を単位修得したものは受講することはできない。

自由科目

区分	授業科目	学年次・単位数				備考
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
自由科目	大学英語入門*	1				
	初等数学*	1				
	初等物理学*	1				
	初等化学*	1				
	初等生物学*	1				
	基礎物理学*		1			★
	基礎化学*		1			★
	言語科学ゼミナール*	1				
	地学実習*			1		★
	生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)*			1		
	生命科学特別演習*			1	1	
	インターンシップ*				1	1
合計		6:2	0:3	1:2	0:0	

12科目 14単位 (自由科目の単位は卒業要件に算入されない)

★：教職課程履修者は必ず履修すること。

選択科目

区分	授業科目	学年次・単位数				判読 医科
		1年	2年	3年	4年	
		前:後	前:後	前:後	前:後	
専門科目	創薬概論		1			▲
	天然医薬品化学		1			▲
	生態学概論		1			
	応用生物工学		1			
	生活と環境の科学		1			
	植物生理学	1				
	医療計測学		1			▲
	実験動物学	1				▲
	応用数学	1				
	薬理学概論			2		▲
	生物物理学			2		
	食品衛生学			2		
	遺伝子工学Ⅱ・遺伝子治療学			2		▲
	応用分析化学Ⅰ			2		
	応用微生物学			2		
	放射線生物影響論			2		
	環境生態学			2		
	環境生理学			2		
	環境工学			2		
	蛋白質工学			2		
	進化系統学			2		
	多様性生物学			2		
	環境毒性学			2		
	応用分析化学Ⅱ			2		
	資源生物学			2		
	産業衛生管理学			2		
	分子病理学			2		▲
	ゲノム医科学			2		▲
	生命医科学特講			2		▲
代謝医科学			2		▲	
神経生物学Ⅱ			2		▲	
発生再生医学			2		▲	
炎症医科学			2		▲	
神経薬理学			2		▲	
医薬品合成化学			2			
ケミカルバイオロジー			2			
合計		0:0	3:6	30:24	0:0	

36科目 63単位

▲：生命医科学科指定選択科目

学科指定科目(▲)24単位のうち12単位以上を含む、19単位以上を取得すること。

その選択方法については別途定める。

実務経験のある教員による授業科目の単位数及び 実務経験のある教員による授業科目

【実務経験のある教員による授業科目】

本学生命科学部における実務経験教員とは、医療機関で医師として医療に従事した経験を持った教員や一般企業等での開発職に従事した経験のある教員を指す。科目では、実務に直結した実践的な教育もさることながら、社会的意義の修得と卒後の社会活動への意欲向上を目的として教育・指導を行っている。

【実務経験のある教員による授業科目の単位数】

	生 命 科 学 部		
	分子生命科学科	応用生命科学科	生命医科学科
学科別科目	17	17	15
設置基準上の標準単位数	124		

開講年次	科目名	開講期	科目分類 (分子生命科学科)	科目分類 (応用生命科学科)	科目分類 (生命医科学科)	単位数
1	生化学Ⅰ	後期	必修専門	必修専門	必修専門	2
1	生命医科学Ⅱ (解剖生理学)	後期	選択専門	選択専門	必修専門	1
2	応用生命科学Ⅲ (応用食品科学)	後期	選択専門	選択(学科指定)専門	選択専門	1
2	遺伝子工学 (分子・応用)	後期	必修専門	必修専門		2
3	食品衛生学	後期	必修専門	必修専門	必修専門	2
3	生命医科学Ⅳ (発生再生医学)	後期	選択専門	選択専門	必修専門	1
3	生命医科学Ⅴ (腫瘍医学)	後期	選択専門	選択専門	必修専門	1
3	生命科学Ⅲ (放射線生物影響論)	前期	選択専門	選択専門	選択専門	1
3	生命医科学Ⅷ (感染医学)	後期	選択専門	選択専門	選択(学科指定)専門	1
3	免疫学	前期	選択専門	選択専門	必修専門	2
3	応用生命科学Ⅷ (蛋白質工学)	前期	選択専門	選択(学科指定)専門	選択専門	1
3	生命医科学Ⅵ (分子病理学)	前期	選択専門	選択専門	選択(学科指定)専門	1
3	生命医科学Ⅶ (代謝医学)	後期	選択専門	選択専門	選択(学科指定)専門	1
合計単位数			17	17	15	17

* 各科目の実務経験を持つ教員及び実務経験に基づいた教育・指導の内容については2020年度入学生用授業計画の各科目ページを参照。

IV バイオデータサイエンス入門プログラム・認定証について

【バイオデータサイエンス入門プログラム・認定証とは】

指定された科目の単位を取得することで、バイオデータサイエンス入門プログラム認定証を得ることができます。この認定証は本学生命科学部が発行するもので、バイオデータサイエンスに関する入門的な科目を履修したことを証明します。この認定証を得た者は、さらなる研鑽を積み、急成長しているバイオデータサイエンス分野や企業のIT部門、データ部門、研究部門などで活躍することが期待されています。

1 認定証発行の条件

●2013年度～2019年度入学の学生

以下の8科目のすべての単位を取得した者

必修	数学Ⅰ、数学Ⅱ、情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、統計学
選択	応用数学、プログラミング基礎、バイオ情報科学

2 認定証の申請方法

学生本人が、申請書に自分の成績証明書または成績通知書（コピー可）を添えて、生命科学事務課に申請する。

なお、申請は学部在籍時のみとする（学部卒業後の申請は認めない）。

申請方法や申請時期の詳細に関しては、生命科学部の掲示を見ること。申請時期としては、3年前期の成績配付後の10月初めを予定している。

V 教育職員免許状取得に関する事項

【教職課程の履修について】

教職課程とは、卒業時に教育職員免許法に基づく免許状を取得して、教育職員になる資格を得るための課程である。教職に関する科目および教科に関する科目について教育職員免許法およびその関係法規に定める所定の単位を取得できるように設定されている。

事務窓口は生命科学事務課に置く。

1 免許状について

次の教育職員免許状が取得できる。

- (1) 中学校教諭一種免許状（理科）
- (2) 高等学校教諭一種免許状（理科）

2 教職課程の履修

免許状を取得するには、次の(1)～(4)の要件を全て満たすことが必要である。

- (1) 学部を卒業し学士学位を取得すること。
- (2) 教育職員免許法の定めるところによる教職に関する科目および教科に関する科目について、所定の単位を取得すること。
それぞれについて必要な単位は（P45～49）のとおりである。
- (3) 上記(2)の科目の他、次の科目の修得が免許法で定められている。

科 目	単 位	本学部における授業科目
日本国憲法	2 単位	法学（日本国憲法） 注)
体育	2 単位	スポーツⅠ・Ⅱ 注)
外国語コミュニケーション	4 単位	Academic EnglishⅠ・Ⅱ
情報機器の操作	2 単位	情報科学Ⅰ・情報科学Ⅱ

注) 本学部における授業科目は選択科目であるが教職課程履修者は必修となるので注意すること。

- (4) 中学校教諭免許状を取得するには「介護等体験」が義務付けられている。
3年次に7日以上介護等体験（社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間）を行い、その施設・学校が発行する証明書を受けることが必要である。
 - * 身体障害者手帳に、障害の程度が一級から六級である者として記載されている者については、介護等体験は免除される。ただし、上記該当者であっても希望があれば社会福祉施設、特別支援学校の許可を得たうえで介護等体験を行える場合がある。上記該当者は介護等体験実施前年度（通常2年次）の12月までに、介護等体験の免除希望の有無にかかわらず、教職課程研究室教員もしくは生命科学事務課担当課員に相談すること。
 - * 教職課程において、教科に関する科目については、地学、地学実習（2013～2016年度入学生は基礎物理学、基礎化学、地学、地学実習）を除いて、学部における必修総合および必修専門科目の履修によって得た単位をもって充てられる。

3 履修の方法

- (1)履修を希望する学生は、教職ガイダンスに必ず出席し、**教職課程受講願（新規）**を提出する。なお、1年次には教職課程受講願（新規）を提出した全員が教職課程研究室教員と面談を行い、そのうえで履修の許可を行うこととする。
- (2)教職課程の履修は、1年次後期から開始する。（法学およびスポーツⅠは**1年次前期履修**）
- (3)教職履修生（全学年）は、学年度始めに行われる教職ガイダンスに出席し、履修継続の手続きを行い、教職課程受講願（継続）を提出する。
- (4)履修者は、一般授業料のほかに、教職課程受講料を納入すること。
（学則・手数料納入金一覧参照）
- (5)各自Webにて教職科目の履修申請を行う。

4 教育実習について

教育実習の単位取得は、事前事後の指導と、実習校（中学校または高等学校）において3～4週間の学習ならびに実地授業を行うことによって与えられる。

- * 東京都内公立中学校での教育実習を希望する場合、大学へ申請をする。なお、実習校の指定はできない。
- * 東京都内公立中学校以外の学校での教育実習を希望する場合、2年次の3月頃、希望する学校へ本人が相談する。なお、受入れ校が極めて少ないので、出身校や知人の紹介による学校などに早めに相談し、依頼すること。その後の諸手続き（正式依頼など）は大学が行う。
- * 受入れ校から教育実習の内諾を受けた後の辞退は、受入れ校での具体的な準備を開始しているため、原則認められない。

5 教職課程の履修に当たっての注意

- (1)教職課程の履修は、次図に示すように1年次後期から始まり4年次まで継続することが要求される。学部卒業要件の単位のほかにかなりの単位数を取得しなければならないので、中途半端な気持ちでは履修できない。将来、教壇に立とうという強い意志を持つ者のみが履修することが望ましい。
- (2)生命科学部としての本来の学業が第一に進むよう、自分の学習計画を十分に考えて教職課程の履修を決定することが必要である。
- (3)教職課程受講願が提出されても、その前年度において未修得の必修科目を残している場合は、教職課程の履修を認めないこともある。受講願提出後、履修意志の確認等のため面接を行う。また1年次前期GPAが1.80以下の場合、履修に関する個別アドバイスを行う。
- (4)2期連続してsemester GPA（学期のGPA）が1.20未満の場合、教職課程研究室教員と面接を行い、今後の履修について判断することとする。
- (5)教職実践演習の履修のためには、原則、4年次に教員採用試験を受験する必要がある。
- (6)教育実習を行う校区周辺での教育関係アルバイト（塾、予備校等）は行わないものとする（4年次4月から実習終了後の時期まで）。

6 大学入学から教育職員免許状取得までの手続き

大学入学 → 教職課程履修 → 介護等体験 → (卒業見込み) → 教育実習 → 教育職員免許状取得

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
4月		教職課程ガイダンス 履修継続申請 教職科目履修登録 (Web)	教職課程ガイダンス 履修継続申請 介護等体験手続開始 教職科目履修登録 (Web) 介護等体験事前指導	教職課程ガイダンス 履修継続申請 教育実習事前指導 教職科目履修登録 (Web)
5月				教育実習実施 5月～11月頃実施 (3～4週間) ※5月、6月の時期が 最も多い
6月	教職課程ガイダンス 履修申請		介護等体験開始 <2日間と5日間> (随時3月まで) 教育実習申請書の提出	
7月				教育実習発表会および 教育職員免許状申請 手続き その① 教育実習記録等の提出
9月	受講料納入 (予定) 教職科目履修登録 (Web)	教職科目履修登録 (Web)	教職科目履修登録 (Web)	教職科目履修登録 (Web)
10月			教育実習発表会 (4年生の体験発表を聞く) (10月～11月頃予定)	
11月				教育職員免許状申請 手続き その②
3月		教育実習校受け入れの 可否打診		教育職員免許状交付

生命科学部 教職課程 教育課程表 2019年度(平成31年度) 分子生命学科入学生から適用

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目								免許状取得のための単位数	
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理学 生命物理学	1 1						2	
		物理学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (物理)	1						1	
		化学	化学有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ	1 1	分析化学 生物有機化学 酵素学	1 1 1		●医薬品合成化学 ●ケミカルバイオ □ジエー	2	2	10
		化学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (化学)	1							1
		生物学	生物学	1	生理学	1	神経生物学Ⅰ ●神経生物学Ⅱ 薬理学概論 ●発生生物学 ●免疫学	2 2 2 2	2	2	12
		生物学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (生物)	1							1
		地学	地球環境論	1	○地学	1					2
		地学実験 (コンピュータ活用含む)			○地学実習	1					1
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)						○理科教育法Ⅰ ○理科教育法Ⅱ ◎理科教育法Ⅲ	2 2 4			中8 高4	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			○教育原理	2						
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む)	○教職概論	2								
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)			○教育行政学	2						
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					○教育心理学	1				
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					○特別支援教育	1				
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む)			○教育課程論	2						
及び道徳、総合的な学習の時間等の指導法 並びに生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法			◎道徳教育指導論	2						
	総合的な学習の時間の指導法			○総合的な学習の時間の指導法	1						
	特別活動の指導法			○特別活動指導論	1						
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	○教育方法・技術論	2								
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法					○教育相談	2				
生徒指導の理論及び方法・進路指導 (キャリア教育に関する基礎的な事項を含む)の理論及び方法					○生徒・進路指導論	2					
教育実践に関する科目	教育実習					○教育実習Ⅰ ◎教育実習Ⅱ	3 2			計 中7 高5	
	教育実践演習					○教職実践演習 (中・高)			2		
大学が独自に設定する科目					◎介護等体験 社会福祉施設等5日間 特別支援学校2日間	2				2	
計：63											
6で定める科目 教育職員免許法施行規則第86条の1	日本国憲法	○法学(日本国憲法)	2							2	
	体育	○スポーツⅠ	1	○スポーツⅡ	1					2	
	外国語コミュニケーション	Academic English I Academic English II	2 2							4	
	情報機器の操作	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ	1 1							2	

[備考] 無印：必修科目のため、履修申請する必要なし。

○：教職課程履修者は履修申請すること。

◎：教職課程履修者は履修申請すること。高校一種免許取得の場合は、選択科目又は「大学が独自に設定する科目」の単位とする。

●：教職課程履修者は6単位以上を履修申請すること。

履修要項

生命科学部 教職課程 教育課程表 2019年度(平成31年度) 応用生命学科入学生から適用

履修要項

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目								免許状取得のための単位数
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	
教科及び教科の指導法に関する科目	物理学	物理学	1	放射化学 エネルギー反応論	1	●放射線生物 影響論	2			5
	物理学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (物理)	1							1
	化学	化学 生物無機化学 生体物質学	1			●応用分析化学Ⅱ	2			5
	化学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (化学)	1							1
	生物学	生物学 遺伝生化学	1	分子遺伝学 分子細胞生物学Ⅰ 分子細胞生物学Ⅱ 遺伝子制御学 生態学概論 代謝生化学Ⅰ 代謝生化学Ⅱ	1	●応用微生物学 ●環境生態学 ●進化系統学	2	2		15
	生物学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (生物)	1							1
	地学			○地学	1					1
	地学実験 (コンピュータ活用含む)			○地学実習	1					1
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)						○理科教育法Ⅰ ○理科教育法Ⅱ ◎理科教育法Ⅲ	2 2 4			中8 高4
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			○教育原理	2					
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む)	○教職概論	2							
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)			○教育行政学	2					
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					○教育心理学	1			
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					○特別支援教育	1			
教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む)			○教育課程論	2						
道徳、総合的な学習の時間、総合的な学習の指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法			◎道徳教育指導論	2					
	総合的な学習の時間の指導法			○総合的な学習の時間の指導法	1					
	特別活動の指導法			○特別活動指導論	1					
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む)	○教育方法・技術論	2							
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法					○教育相談	2			
生徒指導の理論及び方法・進路指導 (キャリア教育に関する基礎的な事項を含む)の理論及び方法					○生徒・進路指導論	2				
教育実践に関する科目	教育実習					○教育実習Ⅰ ◎教育実習Ⅱ	3 2			計7
	教育実践演習					○教職実践演習 (中・高)	2			高5
大学が独自に設定する科目					◎介護等体験 社会福祉施設等5日間 特別支援学校 2日間	2			2	
計：63										
6で定める科目	日本国憲法	○法学(日本国憲法)	2							2
	体育	○スポーツⅠ	1	○スポーツⅡ	1					2
	外国語コミュニケーション	Academic English I Academic English II	2 2							4
	情報機器の操作	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ	1 1							2

〔備考〕 無印：必修科目のため、履修申請する必要なし。
 ○：教職課程履修者は履修申請すること。
 ◎：教職課程履修者は履修申請すること。高校一種免許取得の場合は、「大学が独自に設定する科目」の単位とする。
 ●：教職課程履修者は6単位以上を履修申請すること。

生命科学部 教職課程 教育課程表 2019年度(平成31年度) 生命医科学科入学生から適用

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目								免許状取得のための単位数	
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		授業科目	単位前後	授業科目	単位前後	授業科目	単位前後	授業科目	単位前後		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	物理学 生命物理学	1 1	放射化学 エネルギー反応論	1 1				4	
		物理学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (物理)	1						1	
		化学	化学 生物無機化学 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 生体物質学	1 1 1 1	酵素学 分析化学 生物有機化学	1 1 1					8
			化学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (化学)	1						1
		生物学	生物学 遺伝生化学	1 1	遺伝子制御学 分子遺伝学 分子細胞生物学Ⅰ 分子細胞生物学Ⅱ 生理学 医科生化学Ⅰ	1 1 1 1 1					8
			生物学実験 (コンピュータ活用含む)	基礎生命科学実習Ⅰ (生物)	1						1
		地学	地球環境論	1	○地学	1					2
		地学実験 (コンピュータ活用含む)			○地学実習	1					1
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む)						○理科教育法Ⅰ ○理科教育法Ⅱ ○理科教育法Ⅲ	2 2 4			中8 高4	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		○教育原理	2						10	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む)		○教職概論	2							
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		○教育行政学	2							
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				○教育心理学	1					
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				○特別支援教育	1					
	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む)		○教育課程論	2							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法 及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		◎道徳教育指導論	2						計 中10 高8	
	総合的な学習の時間の指導法		○総合的な学習の時間の指導法	1							
	特別活動の指導法		○特別活動指導論	1							
	教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む)		○教育方法・技術論	2							
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法				○教育相談	2					
生徒指導の理論及び方法・進路指導 (キャリア教育に関する基礎的な事項を含む)の理論及び方法				○生徒・進路指導論	2						
教育実践に関する科目	教育実習					○教育実習Ⅰ ○教育実習Ⅱ	3 2			計 中7 高5	
	教育実践演習					○教職実践演習 (中・高)	2				
大学が独自に設定する科目						◎介護等体験 社会福祉施設等5日間 特別支援学校 2日間	2			2	
計：63											
6で定める科目 教育職員免許法の施行規則第66条の1	日本国憲法	○法学(日本国憲法)	2							2	
	体育	○スポーツⅠ	1	○スポーツⅡ	1					2	
	外国語コミュニケーション	Academic EnglishⅠ Academic EnglishⅡ	2 2							4	
	情報機器の操作	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ	1 1							2	

[備考] 無印：必修科目のため、履修申請する必要なし。

○：教職課程履修者は履修申請すること。

◎：教職課程履修者は履修申請すること。高校一種免許取得の場合は、選択科目又は「大学が独自に設定する科目」の単位とする。

履修要項

生命科学部 教職課程 教育課程表 2017年度(平成29年度)・2018年度(平成30年度) 入学生に適用

履修要項

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目								免許状取得のための単位数
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	
教科に関する科目	物理学	物理学 生命物理学	1 1	放射化学 エネルギー反応論	1 1					4
	物理学実験 (コンピュータ活用含む。)	基礎生命科学実習Ⅰ (物理)	1							1
	化学	化学 生物無機化学 有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 生体物質学	1 1 1 1 1	生物有機化学 酵素学 分析化学	1 1 1					8
	化学実験 (コンピュータ活用含む。)	基礎生命科学実習Ⅰ (化学)	1							1
	生物学	生物学 微生物学 遺伝生化学	1 1 1	遺伝子制御学 生理学 分子細胞生物学Ⅰ 分子細胞生物学Ⅱ 分子遺伝学	1 1 1 1 1					8
	生物学実験 (コンピュータ活用含む。)	基礎生命科学実習Ⅰ (生物)	1							1
	地学	地球環境論	1	○地学	1					2
	地学実験 (コンピュータ活用含む。)			○地学実習	1					1
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	○教職概論	2							2
	教育の基礎理論に関する科目			○教育原理 ○教育行政学	2 2	○教育心理学	2			6
	教育課程及び指導法に関する科目	○教育方法・技術論	2	○特別活動指導論 ○道徳教育指導論	2 2	○理科教育法Ⅰ ○理科教育法Ⅱ ○理科教育法Ⅲ	2 2 4			中14 高8
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目					○生徒・進路指導論 ○教育相談	2 2			4
	教育実習					○教育実習Ⅰ ○教育実習Ⅱ		3 2		中5 高3
	教職実践演習					○教職実践演習 (中・高)			2	2
教科又は教職に関する科目	注) 教育職員免許法施行規則で定める「教科に関する科目」の最低修得単位数(20単位)を超えて履修した単位及び「教職に関する科目」の最低修得単位数(中学31単位、高校23単位)を超えて履修した単位を以て、「教科又は教職に関する科目」の履修要件(中学8単位、高校16単位)を満たすものとする。									
第66条の6で定める科目	日本国憲法	○法学 (日本国憲法)	2							2
	体育	○スポーツⅠ	1	○スポーツⅡ	1					2
	外国語 コミュニケーション	Academic EnglishⅠ Academic EnglishⅡ	2 2							4
	情報機器の操作	情報科学Ⅰ 情報科学Ⅱ	1 1							2
◎介護等体験					7日間(社会福祉施設 5日間・特別支援学校 2日間で体験実習)				2	

[備考] 無印: 必修科目のため、履修申請する必要なし。

○: 教職課程履修者は履修申請すること。

◎: 教職課程履修者は履修申請すること。

高校一種免許取得の場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位とする。

生命科学部 教職課程 教育課程表 2013年度(平成25年度)～2016年度(平成28年度)入学生に適用

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目								免許状取得のための単位数
		1年次		2年次		3年次		4年次		
		授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	授業科目	単位 前後	
教科に関する科目	物 理 学	○基礎物理学 生命物理学I 生命物理学II	1 1 1	放射化学 エネルギー反応論	1 1					5
	物理学実験 (コンピュータ活用含む。)	基礎生命科学実習I (物理)	1							1
	化 学	○基礎化学 無機化学 生物無機化学 有機化学I 有機化学II 生体物質学	1 1 1 1 1 1	生物有機化学 酵素学 分析化学	1 1 1					9
	化学実験 (コンピュータ活用含む。)	基礎生命科学実習I (化学)	1							1
	生 物 学	生物学 微生物学 遺伝生化学	1 1 1	遺伝子制御学 生理学 分子細胞生物学I 分子細胞生物学II 分子遺伝学	1 1 1 1 1					8
	生物学実験 (コンピュータ活用含む。)	基礎生命科学実習I (生物)	1							1
	地 学	地球環境論	1	○地学	1					2
	地学実験 (コンピュータ活用含む。)			○地学実習	1					1
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	○教職概論	2							2
	教育の基礎理論に関する科目			○教育原理 ○教育行政学	2 2	○教育心理学	2			6
	教育課程及び指導法に関する科目	○教育方法・技術論	2	○特別活動指導論 ○道徳教育指導論	2 2	○理科教育法I ○理科教育法II ○理科教育法III	2 2 4			中14 高8
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目					○生徒・進路指導論 ○教育相談	2 2			4
	教育実習						○教育実習I ○教育実習II	3 2		中5 高3
	教職実践演習						○教職実践演習 (中・高)	2		2
	教科又は教職に関する科目	注) 教育職員免許法施行規則で定める「教科に関する科目」の最低修得単位数(20単位)を超えて履修した単位及び「教職に関する科目」の最低修得単位数(中学31単位、高校23単位)を超えて履修した単位を以て、「教科又は教職に関する科目」の履修要件(中学8単位、高校16単位)を満たすものとする。								
第66条の6で定める科目	日本国憲法	○法学 (日本国憲法)	2							2
	体 育	○スポーツI	1	○スポーツII	1					2
	外国語コミュニケーション	Academic English I Academic English II	2 2							4
	情報機器の操作	情報科学I 情報科学II	1 1							2
◎ 介護等体験					7日間(社会福祉施設 5日間・特別支援学校 2日間体験実習)				2※	

[備考] 無印: 必修科目のため、履修申請する必要なし。

○: 教職課程履修者は履修申請すること。

◎: 教職課程履修者は履修申請すること。

高校一種免許取得の場合は、「教科又は教職に関する科目」の単位とする。

※ 介護等体験については平成27年度以降入学生から単位を認定することとする。

履修要項

VI 食品衛生管理者および食品衛生監視員の 任用資格について

指定された科目を習得することで、食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格を得ることができます。

※ 任用資格とは、その職種に就くために求められる国が定めた資格基準のことです。国の定めた任用資格の基準を満たしていれば、有資格者として認められます。これは、該当する職種として採用されると効力を持つ資格で、在職期間に限って通用するものです。

1 分子生命科学科-1

区 分	規 則 科 目 名	左記科目に該当する科目名	選 択 別		単 位 数
			必	選 択	
A 群 化学関係	分析化学	分析化学	○		1
	有機化学	有機化学Ⅰ	○		1
		有機化学Ⅱ	○		1
		生物有機化学	○		1
		天然医薬品化学	○		1
無機化学	生物無機化学	○		1	
	エネルギー反応論	○		1	
	放射化学	○		1	
小 計					8
B 群 生物化学関係	生物化学	生物学	○		1
		生体物質学	○		1
		分子細胞生物学Ⅰ	○		1
		分子細胞生物学Ⅱ	○		1
		代謝生化学Ⅰ△	○		1
		代謝生化学Ⅱ△	○		1
		酵素学	○		1
		神経生物学Ⅰ	○		2
	生理学	生理学	○		1
小 計					10
C 群 微生物学関係	微生物学	微生物学	○		1
		遺伝生化学	○		1
		分子遺伝学	○		1
		遺伝子制御学	○		1
		遺伝子工学Ⅰ	○		1
	小 計				
D 群 公衆衛生学関係	食品衛生学	食品衛生学	○		2
	小 計				
A 群からD 群の合計で22単位以上を履修					25
合計(A+B+C+D)					25

※ 2013年度～2016年度入学生はA群化学関係区分の科目「無機化学」（振替後科目名「化学」）を履修する必要がある。

△ 生命医学科からの3年次転科生においては、代謝生化学Ⅰ(2721)及び代謝生化学Ⅱ(2722)の履修は医科生化学Ⅰ(2721)及び医科生化学Ⅱ(2722)の履修とみなす。

食品衛生管理者 食品や食品添加物を製造、加工する施設で、食品衛生法及び関連する法規や法令に基づいて製造過程に従事する者の指導監督を行います。

食品衛生監視員 官公庁において、食品衛生法に基づく食品製造業や飲食店等の営業施設の食品衛生法上の監視ならびに指導や輸入食品の衛生監視等を行います。

※ 「食品衛生管理者」および「食品衛生監視員」の任用資格に関しては、編入生は取得できません。ただし、これらの資格が取得できる学校（登録養成機関）からの編入生に関しては、指定された科目を履修することにより任用資格を取得することができます。

1 分子生命科学科- 2

区 分	規 則 科 目 名	左記科目に該当する科目名	選択別		単位数	
			必	選択		
E 群 その他関連科目	その他類する科目 (生物・化学系)	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅰ(化学)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅰ(生物)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅱ	○		4	
		分子生命科学実習	○		6	
	衛生統計学	統計学	○		1	
	小 計					14
	医化学	腫瘍医科学 炎症医科学 代謝医科学 ゲノム医科学 発生再生医学 生命医科学特講		○	2	
				○	2	
				○	2	
				○	2	
				○	2	
				○	2	
	病理学	分子病理学 神経生物学Ⅱ		○	2	
				○	2	
	環境汚染物質分析学	応用分析化学Ⅰ 応用分析化学Ⅱ		○	2	
				○	2	
	応用微生物学	応用微生物学 蛋白質工学		○	2	
				○	2	
	毒性学	環境毒性学		○	2	
生物化学	植物生理学 解剖学 発生生物学		○	1		
			○	1		
			○	2		
環境生物学	生活と環境の科学 環境生理学 環境生態学 資源生物学 多様性生物学		○	1		
			○	2		
			○	2		
			○	2		
衛生管理学	産業衛生管理学		○	2		
放射線化学	放射線生物影響論		○	2		
4 単位以上履修 小 計					4	
A 群から E 群を含め40単位以上を履修		総計(A + B + C + D + E)			43	

2 応用生命科学科

区 分	規 則 科 目 名	左記科目に該当する科目名	選 択 別		単 位 数	
			必	選 択		
A 群 化学関係	分析化学	分析化学	○		1	
	有機化学	有機化学Ⅰ	○		1	
		有機化学Ⅱ	○		1	
		生物有機化学	○		1	
無機化学	生物無機化学	○		1		
	エネルギー反応論	○		1		
	放射化学	○		1		
小 計					7	
B 群 生物化学関係	生物化学	生物学	○		1	
		生体物質学	○		1	
		分子細胞生物学Ⅰ	○		1	
		分子細胞生物学Ⅱ	○		1	
		代謝生化学Ⅰ△	○		1	
		代謝生化学Ⅱ△	○		1	
		酵素学	○		1	
		生態学概論	○		1	
生理学	生理学	○		1		
小 計					9	
C 群 微生物学関係	微生物学	微生物学	○		1	
		遺伝生化学	○		1	
		分子遺伝学	○		1	
		遺伝子制御学	○		1	
		遺伝子工学Ⅰ	○		1	
小 計					5	
D 群 公衆衛生学関係	食品衛生学	食品衛生学	○		2	
	小 計					2
A 群からD 群の合計で22単位以上を履修			合計(A+B+C+D)		23	
E 群 その他関連科目	その他類する科目 (生物・化学系)	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅰ(化学)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅰ(生物)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅱ	○		4	
		応用生命科学実習	○		6	
		衛生統計学	統計学	○		1
	小 計					14
	環境汚染物質分析学	応用分析化学Ⅰ		○		2
		応用分析化学Ⅱ		○		2
	応用微生物学	応用微生物学		○		2
		蛋白質工学		○		2
	毒性学	環境毒性学		○		2
	生物化学	植物生理学		○		1
		解剖学		○		1
神経生物学Ⅰ			○		2	
発生生物学			○		2	
環境生物学	生活と環境の科学		○		1	
	環境生理学		○		2	
	環境生態学		○		2	
	資源生物学		○		2	
	多様性生物学		○		2	
衛生管理学	産業衛生管理学		○		2	
放射線化学	放射線生物影響論		○		2	
6 単位以上履修 小 計					6	
A 群からE 群を含め40単位以上を履修			総計(A+B+C+D+E)		43	

- ※ 2013年度～2016年度入学生はA群化学関係区分の科目「無機化学」(振替後科目名「化学」)を履修する必要がある。
△ 生命医科学科からの3年次転科生においては、代謝生化学Ⅰ(2721)及び代謝生化学Ⅱ(2722)の履修は医科生化学Ⅰ(2721)及び医科生化学Ⅱ(2722)の履修とみなす。

3 生命医科学科

区 分	規 則 科 目 名	左記科目に該当する科目名	選 択 別		単 位 数	
			必	選 択		
A 群 化学関係	分析化学	分析化学	○		1	
	有機化学	有機化学Ⅰ	○		1	
		有機化学Ⅱ	○		1	
		生物有機化学	○		1	
	無機化学	生物無機化学	○		1	
エネルギー反応論		○		1		
放射化学		○		1		
	小 計				7	
B 群 生物化学関係	生物化学	生物学	○		1	
		生体物質学	○		1	
		分子細胞生物学Ⅰ	○		1	
		分子細胞生物学Ⅱ	○		1	
		医科生化学Ⅰ▲	○		1	
		医科生化学Ⅱ▲	○		1	
		酵素学	○		1	
		解剖学	○		1	
		神経生物学Ⅰ	○		2	
	免疫学	○		2		
生理学	生理学	○		1		
	小 計				13	
C 群 微生物学関係	微生物学	微生物学	○		1	
		遺伝生化学	○		1	
		分子遺伝学	○		1	
		遺伝子制御学	○		1	
		遺伝子工学Ⅰ	○		1	
	小 計				5	
D 群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	感染医科学	○		2	
	小 計				2	
A 群からD 群の合計で22単位以上を履修					合計(A+B+C+D)	27
E 群 その他関連科目	その他類する科目 (生物・化学系)	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅰ(化学)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅰ(生物)	○		1	
		基礎生命科学実習Ⅱ	○		4	
		生命医科学実習	○		6	
	衛生統計学	統計学	○		1	
		小 計				14
	医化学	腫瘍医科学		○		2
		炎症医科学			○	2
		代謝医科学			○	2
ゲノム医科学				○	2	
発生再生医学				○	2	
生命医科学特講				○	2	
病理学	分子病理学			○	2	
	神経生物学Ⅱ			○	2	
	2 単位以上履修 小 計				2	
A 群からE 群を含め40単位以上を履修					総計(A+B+C+D+E)	43

※ 2013年度～2016年度入学生はA群化学関係区分の科目「無機化学」(振替後科目名「化学」)を履修する必要がある。

▲ 分子生命科学科及び応用生命科学科からの3年次転科生においては、医科生化学Ⅰ(2721)及び医科生化学Ⅱ(2722)の履修は代謝生化学Ⅰ(2721)及び代謝生化学Ⅱ(2722)の履修とみなす。

VII 生命科学部で取得可能な資格

学生の皆さんは、今学んでいる内容が将来の自分とどのようにつながるのか？どのような職域の仕事につながるのかについて、興味と同時に多少の不安を抱えていることでしょう。そのようなときに、今学んでいる科目と関連する資格を考えて、就業できる仕事の内容をとらえ、学びと就職を考えてみることも有効でしょう。

生命科学部で取得可能な資格は、取得方法や時期によって大きく3つに分類できます。

1) 卒業時に取得できる資格

教員免許は教職課程をすべて履修することによって取得できます。

食品衛生監視員と環境衛生監視員は、対応する試験区分で国や地方自治体の公務員試験に合格すると就業できる資格で、任用資格といわれています。生命科学部の卒業生が東京都などの食品衛生監視員としてすでに活躍しています。

2) 試験に合格すれば取得できる資格

在学中に試験に合格すれば取得することができる資格があります。生命科学部では技術士(補)とすることができる技術士第一次試験の合格を支援しています。この試験に合格後、5年から7年の経験を経ると、第二次試験の受験資格ができ、第二次試験の合格者が技術士とされます。産業分野で「技術士」は、「博士」と同等に評価される称号です。

環境計量士や第一種放射線取扱主任者の資格は、環境計測や放射線関連では就業に有利な資格といわれています。

情報技術(IT)に興味のある方は、ITパスポート、基本情報技術者、また、バイオインフォマティクス技術者等の資格もキャリア形成に役に立ちます。

知的財産管理技能士は、発明や創作等を進める戦略を立案し、また、発明や創作などによって生み出される権利を活用する管理運営力を持つプロフェッショナルです。企業の知財部門や特許事務所が活躍の場となり、技術を開発し運用する部門では弁理士と共に大変重要な役割を担っています。

3) 卒業後、試験に合格すれば取得できる資格

労働衛生コンサルタント、第一種作業環境測定士、第一種衛生管理者の資格は、大学卒業後一定の実務経験、あるいは、資格取得を経て受験資格が得られます。それぞれ、労働衛生分野で重要な仕事に就くために必要な資格となります。

1 技術士第1次試験について

受験申し込みの期間は例年6月から7月上旬で、試験は10月の体育の日に実施されます。

試験科目は、基礎科目（科学技術全般にわたる基礎知識）、適性科目（技術士等の義務の規定の遵守に関する適性）、そして、専門科目（あらかじめ選択する1技術部門に係る基礎知識及び専門知識）です。生命科学部の履修内容から比較的受験しやすい専門部門は、生物工学部門、環境部門、および、化学部門です。1-2年生の間に基礎（数学、物理、化学、生物、情報科学）をしっかりと学び、2-3年生で専門科目を積み上げることが合格につながります。

* 自分で計画的に勉強することが大切です。学生の皆さんの希望により、試験対策講座を開催予定です。また、日本技術士会のHPも参考にしましょう。

2 第一種放射線取扱主任者試験について

放射性同位元素あるいは放射線発生装置の使用施設では、放射線障害の防止について監督を行わせるため、事業所につき1名以上の主任者をおくことが法令で義務付けられています。その主任者免許を取得するための試験です。

例年8月下旬、2日間にわたって行われます。試験科目は①物理学、②化学、③生物学、④管理および測定技術に関する科目、⑤法令の5科目です。全問とも選択・マークシート方式ですが、曖昧な知識では正解の選択肢を選ぶことは困難な場合が多く、正確な知識が要求されます。全国の平均合格率は20%程度で、難しい国家試験の一つです。合格基準は各科目単独の得点が5割以上、かつ全科目の得点合計が6割以上です。不得意な科目でも最低5割得点し、得意科目で高得点をとれば合格可能です。

試験科目からわかるように、この試験に合格するためには生命科学系の基礎科目（高校数学を基礎とした物理学・化学・生物学）の力をつけることが大前提です。この試験と関連が深い講義は「放射化学」（2年生前期）と「放射線生物影響論」（3年生前期）です。上記6科目のうち、「放射化学」では物理学と化学、「放射線生物影響論」では生物学、管理・測定技術、および法令に触れます。しかし講義の内容を理解するだけでは合格するための力は身につけません。これらの講義で用いる教科書は放射線取扱主任者試験の要点をまとめたものなので、この教科書を一通り読んで内容を理解し、さらに過去数年分の問題を掲載した過去問集（毎年1月に最新版が発行されます）を数回以上解きましょう。後期の期末試験が終了した後、春休み中（2月と3月）に教科書を通読しながら物理と化学（できれば生物学も）の過去問に取り組みましょう。そして4月からは管理・測定技術（この分野は物理・化学・生物学に関する問題もかなり含まれます）や法令も本格的に勉強を始めれば、半年間かけて効率よく勉強できます。生命科学部からの合格者は主に3年生なので、通常は2年生の2月から対策を始めることになりますが、中には2年生の合格者もいます。したがって意欲的な人は1年生の2月から勉強を始めましょう。生命科学部には第1種放射線取扱主任者の資格を持つ教員が6名在籍しており、受験のサポートを行っています。

この試験に合格するという事は基礎学力が備わっていることの証しにもなります。たとえ将来、放射線に関連する仕事に就かない人でも就職活動を有利に進められます。そして何よりも4年生から始まる研究活動を自信を持って始められます。

3 バイオインフォマティクス技術者試験について

バイオインフォマティクス (Bioinformatics) とは、生命科学と情報科学との学際領域のことです。

近年の生命科学と情報科学 (コンピュータ科学) の発展に伴い、両方の学問の知識や技術をバランスよく身に付けた人材の養成が、国内外を問わず求められています。「バイオインフォマティクス技術者」とは、日本バイオインフォマティクス学会が認定する、日本で唯一のバイオ情報に関する資格で、毎年12月上旬にCBT方式で行われています (<https://www.jsbi.org/activity/nintei/>)。生命科学分野、情報科学分野 (確率・統計も含む)、バイオインフォマティクス分野から、計80問出題されます (4者択一式)。

本学部のカリキュラムでは、出題範囲のうち生命科学分野は生物系の諸科目で、情報科学分野は生物統計学と情報系の諸科目でカバーしています。またバイオインフォマティクス分野は分子生命科学Ⅵ (バイオインフォマティクス) で、認定試験の過去問を用いた演習を授業に取り入れたり、過去問をデータベース化したCBT (ComputerBasedTesting) と呼ばれる自習用支援サービスをCodexで提供しています。資格取得者は、民間および公的な研究施設やコンピュータ関連の企業で、バイオ情報処理やプログラム開発の分野において活躍することが期待されています。

4 知的財産管理技能検定について

知的財産とは、発明や創作によって生み出されたものを、発明者の財産として一定の期間保護する権利です。知的財産には、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権、回路配置利用権などのさまざまな権利が含まれます。知的財産管理技能士は、このような知的財産を生み出し、活用し、利用して保護するための、開発戦略、マーケティング戦略、リスク管理や契約などを管理運営することについて知識と技能を身につけた職能人、すなわち、プロフェッショナルです。この資格は、国が認めた国家資格です。詳しくは、知的財産教育協会のホームページを参照ください (<http://www.kentei-info-ip-edu.org/>)。また、知的財産管理技能検定を、多くの企業が推奨・活用し、資格手当を与える企業も珍しくありません。

初歩レベルの3級受験には資格を問われません。中級レベルの2級の受験には、3級の合格あるいは実務経験が必要です。2級知的財産管理技能検定合格者は、企業の知財部門で業務を行う入り口にいる人材であると考えられています。1級知的財産管理技能士は、知的財産管理のスペシャリストと言える資格です。

VIII 資格案内のまとめ

1 卒業時に取得できる資格

	資格名	公的資格	民間資格	主な職域など	資格試験内容(学内での履修コース)
1	教育職員免許(一種)	○		教員	学部が教職科目を設けている。
2	食品衛生監視員	○		公務員(食品衛生監視員)	本学部は登録養成機関である。指定された科目を修得することで任用資格を得る。
3	食品衛生管理者	○		食品製造販売施設(企業)	本学部は登録養成機関である。指定された科目を修得することで任用資格を得る。
4	環境衛生監視員	○		公務員(環境衛生監視員)	卒業時に得られる。食品衛生監視員の任用と同一試験区分の自治体もあり注意が必要。

2 試験に合格すれば取得できる資格

	資格名	公的資格	民間資格	主な職域など	資格試験内容(学内での履修コース)
5	第一種放射線取扱主任者	○		放射線取扱施設	8月下旬に2日間にわたり試験が実施される。放射線の物理・化学・生物学の知識、防衛、法律の知識など。
6	上級バイオ技術者		○	民間のバイオ施設など	12月下旬に実施される。タンパク質、核酸、バイオ機器、バイオテクノロジーに関する知識を問う問題。
7	公害防止主任管理者	○		一定規模以上の事業所	10月初旬に実施される。公害総論、水質・大気測定など。
8	環境計量士	○		計量法で定められた資格、環境測定管理を行う。分析を行う事業所で必要	12月中旬に実施される。環境関連では最も難しい試験の一つ。分析化学、計量法・計量管理に関する問題。
9	技術士(補)	○		技術士の補佐、技術士第1次試験に合格が必要	10月の体育の日に試験実施。理科の基礎知識と技術的専門知識。生命科学部では資格取得を奨励。
10	甲種危険物取扱者	○		危険物取扱事業所	年6回程度実施されている。危険物の化学と物理・法令など。3年次に受験可能。
11	ITパスポート	○		一般企業、情報技術を活用するすべての職域	毎月複数回、CBT方式で実施される。情報技術を中心に、ストラテジ系、マネジメント系分野からも出題される。
12	基本情報技術者	○		情報技術を実践的に活用する職域	年2回(上期、下期)の一定期間、CBT方式で実施される。ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の3分野から出題される。
13	バイオインフォマティクス技術者		○	民間および公的な研究施設、コンピュータ関連の技術職	12月上旬に実施される。分子生命科学VI(バイオインフォマティクス)
14	知的財産管理技能士	○		知的財産管理業務	知的財産に関する知識(ブランド保護、技術保護、コンテンツ保護、デザイン保護)、および、関係法規に関する学科試験と、課題発見、課題解決能力に関する実技試験。年3回の受験チャンスがある。
15	統計検定	○		統計を実践的に活用する職域	2級は希望日時で全国約240会場でCBT受験が可能。紙ベースは、2級が年2回、準1級および1級が年1回。

3 卒業後、試験に合格すれば取得できる資格

	資格名	公的資格	民間資格	主な職域など	資格試験内容(学内での履修コース)
16	労働衛生コンサルタント	○		労働衛生環境の向上に関する相談	労働衛生、健康管理に関する試験。7年以上の実務経験を有するか、技術士などの有資格者が受験資格を有する。
17	第一種作業環境測定士	○		作業環境の分析計測	労働衛生や環境測定に関する試験。1年以上の実務経験を有するか、技術士などの有資格者が受験資格を有する。
18	第一種衛生管理者	○		一定規模以上の事業所	実務経験を1年以上積み、講習会を受けて後、試験に合格。

関連する講義科目	試験のサポート	仕事の内容
P42～49参照		中学・高等学校の理科教員。
P50～53参照		公務員試験(食品衛生監視員)に合格して、任用される。検疫所・保健所などに所属し、食品の安全性を保つための検査や指導を行う。また、食品製造所や飲食店の衛生監視および指導を行う。
P50～53参照		食品加工や製造を行う施設において、衛生面、安全面を監督する。一定規模以上の施設では設置を義務づけられている。
		公務員試験(環境衛生監視員)に合格して、任用される。保健所などに所属し、環境衛生に関係する施設に対して立入検査等の監視指導を行い、空気環境・水質その他の維持管理基準を満たすように監視指導を行う。

関連する講義科目	試験のサポート	仕事の内容
放射線生物影響論、放射化学など	講義内でのサポートに加え、説明会などを開催	大学や民間の放射線取り扱い施設で、配置が義務付けられている。放射線の管理業務を主に行う。
遺伝子工学Ⅰ、遺伝子工学・遺伝子治療学		主に民間施設におけるバイオ技術者として働く。
分析化学、応用分析化学Ⅰ	講義内で一部サポート	一定以上の規模の工場において、設置が義務付けられている。公害の発生を防止するための管理業務を行う。
分析化学、応用分析化学Ⅰ、統計学	講義内で一部サポート	環境分析関連企業で、分析の管理を行い分析値の保証を行う。環境測定を行う事業所では、この資格に手当を支給している会社も多い。
化学、有機化学、生物学、数学などと各専門科目	生命科学部が対策講座を開催	一定の経験の後に、技術士2次試験を受験し、技術士となる。高度な技術的知識を有する人材と認められ、技術業務の立案、設計、評価を行う。技術コンサルタントとして自立、あるいは、企業内で活躍する。
化学、有機化学、エネルギー反応論などの化学系講義	生命科学部が対策講座を開催	一定量以上の危険物を取り扱う事業所に設置が義務付けられている。危険物の管理業務を行う。
情報科学Ⅰ、バイオ情報科学	講義内で一部サポート	経済産業省が主催する12個の情報系資格の中のレベル1(エントリーレベル)。情報技術だけでなく、財務諸表、戦略、マーケティングの初歩に関する出題される。この資格の勉強を通じて、企業の仕組みについて理解を深め、就職活動の準備をすることができる。合格率は5割程度。
情報科学Ⅰ、情報科学Ⅱ、プログラミング基礎、バイオ情報科学	講義内で一部サポート	経済産業省が主催する12個の情報系資格の中のレベル2(基本レベル)。試験の合格率は2割程度だが、合格すると、コンピュータ関係企業への就職が有利になる場合がある。資格手当や合格報奨金が出る企業もある。
バイオ情報科学	講義内でサポート、自習用演習システムあり	生物学と情報科学の知識をバランス良く身につけた技術者・研究者として、バイオ情報処理やプログラム開発の分野で活躍できる。
生命科学知財論	講義内で一部サポート	企業の知的財産管理部門や弁理士事務所業務に当たる。単に、特許出願のサポートをするだけではなく、社会の技術動向を踏まえて、社会で近い将来必要とされる新しい技術の内容と、開発戦略を立案しサポートすることも知的財産管理技能士の大切な業務。
統計学	講義内で一部サポート	統計的手法を身につけると、データ分析、研究開発、企画、販売、製造など、データを扱う全ての部門・職種で役立つ。

関連する講義科目	試験のサポート	仕事の内容
産業衛生管理学、生活と環境の科学		労働者の衛生環境や健康管理について、企業などの事業者へのアドバイス業務を行う。
分析化学、応用分析化学Ⅰ		一定規模以上の事業者における作業労働衛生環境の測定分析を行う。
産業衛生管理学、生活と環境の科学		一定規模以上の事業者における作業・労働衛生管理を実施する。

Ⅸ キャリア・就職支援

学生生活を目標もって有意義に過ごすかどうか、将来に大きく影響します。
キャリアセンターでは、以下のキャリア・就職支援を行っていますので、積極的に参加してください。

【主なキャリア・就職支援】

●キャリア・進路ガイダンス（各学年）

各学年で進路ガイダンスを開催しています。学年ごとに、必要な内容をテーマに開催しているのが特長です。特に3年次（および修士1年）については、就職活動の流れに沿った内容で複数回実施しています。

●講座

コミュニケーション力や就職意識を高めるためのワークや社会人として必要なマナー、就職活動に必要な対策などを各分野の専門家により半日あるいは1日かけて実施しています。

●業界・職種研究セミナー、企業合同フォーラム

各企業の採用担当者やOB・OGと大学構内で直接話しができる説明会です。採用実績のある製薬企業、CRO（治験受託企業）、化学、食品、化粧品、出版、情報サービスなど多くの幅広い分野の企業が参加します。

●インターンシップ

学生が就業体験を行うインターンシップにも力を入れています。3年次（および修士1年）に製薬・CRO・化学・分析、出版など多くの企業で就業体験ができます。仕事の理解や自分の適性を知る上で役立ちます。履修の場合は、選択総合科目1単位が取得できます。

●進路に関する相談やトレーニングなど

自分にふさわしい進路を選択するためには、しっかりとした自己分析が欠かせません。キャリアセンターでは、業界出身のキャリアコンサルタントが進路相談、グループディスカッション、自己PR、模擬面接や履歴書・エントリーシートのアドバイスなどを随時行っています。

●その他

SPI等の適性検査の模擬試験、公務員模擬試験、公務員試験対策講座などの支援を行っています。

2022年度 キャリア・就職支援スケジュール

対象	月（予定）	内容
1年生	4月	進路ガイダンス「キャリアとは?」「キャリア活用術」
	5月	生命科学部卒の活躍業界紹介
	6月	人生すざろく金の糸で自分らしさを見つけよう
2年生	4月	進路ガイダンス「キャリアデザイン」
	5月	適職診断テスト「CPS-J」オンライン受験 ※6月の「CPS-Jをキャリアに生かそう」で解説します。
		業界・職種研究入門1（製薬企業）
	業界・職種研究入門2（CRO・SMO）	

対象	月(予定)	内 容
2年生	6月	CPS-Jをキャリアに生かそう
	1月	スタートアップ①自己分析
		スタートアップ②自己表現力‘アサーション’ スタートアップ③業界研究「製薬」
3年生 (修士1年生)	4月	進路ガイダンス「働くこと」「就職支援」「就職準備」
		企業志望者ガイダンス
		製薬企業の職種研究講座
	5月	適職診断テスト「CPS-J」オンライン受験 ※6月の「適職診断テスト用いた自己分析解説講座」で解説します。
		適性検査対策講座
		学内認定・公募制インターンシップ説明会
		インターンシップ研究講座～前編～
		自己分析講座①
		ガクチカ作成講座②
		企業研究講座③
	6月	志望動機作成講座④
		重要スキルを知る講座(自己PR、面接&Web動画対策) 適職診断テストCPS-Jを用いた自己分析解説講座
	7月	ビジネスマナー講座
		学内認定・公募制インターンシップ事前教育会 ※参加者のみ
	8月	学内認定インターンシップ(就業体験) ※参加者のみ
		インターンシップ研究講座～後編～
	9月	学内認定インターンシップ報告会 ※参加者発表
	10月	業界・職種研究セミナー(医薬品商社/IT・化学・化粧品/CRO)
		グループディスカッション(GD) 対策講座
	11月	論作文対策講座
MR体感講座		
業界・職種研究セミナー(製薬)		
適正検査対策集中講座(全4回)		
12月	決算書の見方	
	業界・職種研究セミナー(検査・分析、医療機器)	
2月	就活準備総まとめ講座	
	企業合同フォーラム	
随時	ES・履歴書添削・模擬面接・GD・自己PR・時事問題 他	
4年生 (修士2年生)	4月	進路ガイダンス「内々定・進学対策」
	5・6月	就活生のための相談会
	随時	ES・履歴書添削・模擬面接・GD・自己PR・時事問題 他
全学年	6月	第1回TOEIC
	7月	公務員研究ガイダンス
	8月	夏季集中公務員試験対策講座
	9月	学内認定インターンシップ報告会 ※3年生・修士1年生発表、1～3年生聴講
	10月	就職活動体験発表会(生命・大学院編) ※4年生発表、1～3年生聴講
	12月	第2回TOEIC
	3月	春季集中公務員試験対策講座
	随時	個別進路相談

※ 内容・スケジュールは、変更・追加になる場合があります。

X 生命科学部の研究室と教員

※各教員のオフィスアワーは別途学期中に周知する。

分子生命科学科

研究室	氏名	役職
分子神経科学	山内 淳司	教授
	森本 高子	准教授
	関 洋一	助教
	白井 玲美奈	嘱託助教
生物有機化学	伊藤 久央	教授
	小林 豊晴	准教授
	川本 諭一郎	助教
生命分析化学	梅村 知也	教授
	内田 達也	准教授
	熊田 英峰	講師
	青木 元秀	助教
分子生物化学	井上 英史	教授
	藤川 雄太	准教授
	尹 永淑	助教
細胞情報科学	伊藤 昭博	教授
	前本 佑樹	助教
生物情報科学	小島 正樹	教授
生物物理科学	高須 昌子	教授
	野口 瑶	助教
言語科学	星野 裕子	教授
	萩原 明子	准教授

情報教育研究センター

氏名	役職
森河 良太 (分子生命科学科教員)	准教授

生命科学実習センター

氏名	役職
玉腰 雅忠 (応用生命科学科教員)	准教授
橋本 吉民 (生命医科学科教員)	助教

応用生命科学科

研究室	氏名	役職
環境応用植物学	藤原 祥子	教授
	佐藤 典裕	准教授
	岡田 克彦	助教
環境応用動物学	(新任教員予定)	教授
	高橋 滋	准教授
	梅村 真理子	講師
	中野 春男	助教
食品科学	熊澤 義之	教授 [*]
	時下 進一	准教授
	志賀 靖弘	助教
生命エネルギー工学	渡邊 一哉	教授
	高妻 篤史	助教
生物工学	冨塚 一磨	教授 [*]
	横堀 伸一	准教授
	宇野 愛海	助教
応用生態学	野口 航	教授
	溝上 祐介	助教

※ 実務経験を有する教員

■実務経験教員および担当科目について

実務経験教員とは、医療機関で医師として医療に従事した経験を持った教員や、一般企業等での開発職に従事した経験のある教員を指し、科目では、実務に直結した実践的な教育もさることながら、社会的意義の習得と卒業後の社会活動への意欲向上を目的として教育・指導を行っている。なお、実務経験教員が担当する科目は実務経験科目一覧のページ(P40)にて示している。

生命医科学科

研究室	氏名	役職
分子細胞生物学	多賀谷 光 男	教授
	新 崎 恒 平	准教授
	井 上 弘 樹	講 師
	若 菜 裕 一	助 教
ゲノム情報 医科学	細 道 一 善	教授
	土 方 敦 司	准教授
	佐 藤 礼 子	講 師
	米 田 敦 子	講 師
再生医科学	山 口 智 之	教授
	福 田 敏 史	講 師
	長 島 駿	助 教
幹細胞制御学	平 位 秀 世	教授*
	伊 東 史 子	准教授
	横 田 明日美	助 教
腫瘍医科学	原 田 浩 徳	教授*
	林 嘉 宏	准教授*
	小 林 大 貴	助 教
免疫制御学	田 中 正 人	教授*
	浅 野 謙 一	准教授
	四 元 聡 志	助 教
細胞制御医科学	田 中 弘 文	教授

※ 実務経験を有する教員

非常勤講師

教員氏名	
石 飛 昌 光	霜 田 浩 信
青 木 孝 博	高 橋 勇 二
Andrea D. LITTLE	武 井 大 輔
Ian HENDERSON	溜 田 信
市 石 博	内 藤 麻 緒
伊 藤 昌 子	中 山 恭 一
糸 賀 響	Nikolaos John Karoukis
今 井 光 子	西 川 玲 子
Wilma Hara	西 田 洋 平
宇 田 光	野 木 園 子
内 田 裕 美	蜂 谷 加 奈
岡 田 大 士	平 田 稔
柿 花 隆 昭	古 澤 輝 由
加 藤 暁 子	前 田 佑 二 郎
加 藤 三 和	三 ッ 橋 愛
奇 貞 旼	武 蔵 由 佳
工 藤 亘	森 山 賢 一
近 藤 弘 美	吉 本 篤 子
齋 藤 和 夫	頼 明
崎 地 康 文	Richard SHOOLTZ
清 水 政 義	

教職課程研究室

氏名	役職
田 子 健	教授
内 田 隆	准教授

XI 研究棟について

研究棟（研究3号館・研究4号館）は、教員の研究の場です。ここから新しい発見が、そして世界に冠たる研究が生まれるでしょう。

学生諸君も、ゼミの時だけでなく、何か知りたい時、勉強したい時、そして教職員と親しく話したい時、オフィスアワーを積極的に活用して遠慮なく研究棟を訪れてください。きっと新しい何かが見えてくるでしょう。

研究棟（研究3号館・研究4号館）では次のことに注意してください

- 1) 研究・思考の場ですから、静穏に保ちましょう。
- 2) 実験の場を清潔に保ちましょう（土足厳禁）。
- 3) 特別な場合を除いて、近い階は、なるべく階段を使用しましょう
（研究や様々な業務に差し支える時があります）。
- 4) 研究棟に設置されている実験用の製氷機は飲用には使えません。気をつけてください。

XII 自習時間におけるコンピュータ使用について

1 2107コンピュータ室（コンピュータ端末室）の利用

生命科学部の学生なら誰でも自習時間（よろづ相談室）にコンピュータ端末（iMac 36台、mac OS およびWindowsの両方を起動できます）を使うことができます。

授業の時と違い、自分のペースでコンピュータに触れる良い機会ですから、大いに利用してください。その際、みんなが気持ち良く使うために、最低限ルールを守ってください。

1) 禁煙、飲食厳禁および持ち込み禁止

万が一食べ物や飲み物がコンピュータにかかった場合、故障の原因となります。

2) 私語厳禁

他の学生の迷惑になりますので、慎んでください。

3) 個人所有のコンピュータ・ソフトウェアのインストールの禁止

フリーウェアや、市販のソフトなどをコンピュータ端末室のiMacで勝手に使用しないでください。コンピュータ・ウィルスがネットワークに入るとさまざまな問題を引き起こす恐れがあり、また、授業の妨げにもなります。また、パソコンの固定ディスクにインストールされている市販のソフトウェアをコピーすることも厳禁です。Cabosなどのファイル共有ソフトやゲーム等、自分で持ち込んだソフトウェアも絶対に使用しないでください。

4) 機械の扱いは丁寧に！

コンピュータは精密な機械ですから、少しのことで調子が狂ってしまうことがあるので、丁寧に扱ってください。また、許可なくコンピュータの電源コードやネットワークコンセントを取りはずして、自分のノートパソコンを接続しないでください。教室内の端末のネットワーク設定に障害を与えることがあります。

5) 個人のノートパソコンの使用禁止

ノートパソコンは所定の場所で使用してください。詳しくは冊子『CAMPUS LIFE』をご覧ください。

6) 衛生的な環境を保つ

ほこり、水分などでも傷みます。手の汚れなどに気をつけてください。また、床を損傷させるような靴、履物を着用して入室しないでください。

7) 自習時間の終了

自習時間終了の5分前になったら、コンピュータ端末の終了の準備をしてください。

(1) 利用時間

コンピュータ自習時間表は、学期始めにコンピュータ端末室および生命科学事務課前の各学年の掲示板に掲示します。

(2) 困った時等

わからなくなったら、教員もしくはアシスタントの学生（TA：ティーチングアシスタント）に聞いてください。また、TAの指示には従ってください。

2 学内におけるノートパソコンの利用上の注意

ノートパソコンを学内で有効に利用するにあたって、次の事項に留意してください。

1) 各自が責任をもって管理すること

紛失、盗難にあわないように十分に気をつけること。

2) ロッカーに保管するときは、しっかり施錠すること。

簡易のものでなく、しっかりした施錠にすること。

最近では学内における盗難事件が頻発しています。施錠しても壊される場合があるので、ロッカーに入れたまま帰宅しないこと。

3) バッテリーは充電しておくこと

大学に持参するときは各自、家で充電しておくこと。また、学内の利用可能なコンセントから充電している最中にその場を離れる場合は、盗難に十分注意すること。

4) 学内ネットワーク（TYCOON）を利用するためには

必修総合科目「情報科学Ⅰ」を受講することが前提となります。当授業では学内ネットワークの利用方法とそのためユーザ登録について学びますので、**それに合格するまでは「仮免許」での利用となります**。なお生命科学部の全ての講義室と実習室、学生会館や図書館において、無線LANを用いてノートパソコンを学内ネットワークに接続して使用することができます（学生会館PIT、教育4号館および2104講義室では有線LANも使えます）。詳しくは冊子『CAMPUS LIFE』をご覧ください。

5) ソフトウェアの違法コピーは厳禁（著作権）

CD、DVD、コンピュータ、アプリケーション等のソフトウェアは、著作権として法律によって守られています。これらの違法なコピーやダウンロードは行わないこと。また、これらの**違法行為を助長するファイル共有ソフト（P2Pソフト）の学内における使用を禁止**します。

6) 使用上の問題や疑問が生じたときは

「情報科学Ⅰ」の授業で配布される資料や冊子『CAMPUS LIFE』を参照し、できるだけ自分で勉強し解決できるよう心がけること。試行錯誤しても解決できない場合は、「情報科学Ⅰ」の担当教員またはTAに相談すること。

7) 「東京薬科大学生協」で生命科学部指定パソコンを購入した学生

不具合、故障等が発生した時には原則として「東京薬科大学生協」で対応してくれます。

また、大学生協PC保障サービス（延長修理保証＋動産総合保証）の適用を受けることができる上、修理中にレポート作成等の自宅学習が必要な場合はパソコンの貸し出しが受けられます（ただし貸出台数に上限あり）。詳しくは下記生協にて確認すること。

東京薬科大学生活協同組合

TEL / 042-676-6368

営業 / 10:00 ~ 18:00 (日曜・祝日閉店)

場所 / 学内 学生会館

E-Mail / toyaku.sb@fc.univcoop.or.jp

XIII Codex におけるファイル（レポート）提出について

ICT（情報通信技術）の進歩により、課題レポートを紙媒体ではなく情報ネットワークを通じて提出する大学が増えています。本学部でもオンライン学習管理システム“Codex（コデックス）”を利用して、課題やレポートをファイルの形式で提出（アップロード）する機会が多くあります。

Codexを通じたレポートの提出方法には、「課題」、「Turnitin課題2」の2つがあります。どの方法でレポートの提出を行うかは、講義や実習によって異なりますが、次のように共通する注意事項がありますので、予めよく読んでおいてください。

- 1) **担当教員の指示**をしっかりと聴き（読み）、理解した上でレポートファイルを提出しましょう。Codex内のレポート提出画面だけでレポートの提出要領を直感的に把握しようとするのは、間違いの元です。
- 2) アップロードする**ファイルの名前は、[半角英数字] + [拡張子]**としましょう。全角文字（カナ漢字等）で問題ない場合もありますが、一般的にトラブルが起きやすいので使用を避けましょう。またファイル名内に空白（スペース）を入れないでください。
- 3) 文書中で**機種依存文字（環境依存文字）を使わないでください**（ローマ数字や丸数字等）。使って問題ない文字については、東京薬科大学『CAMPUS LIFE』の情報教育研究センターの章に記載されていますので、是非一度お読みください。
- 4) レポートファイルの提出後、**提出が完了しているか、必ず確認してください**。確認はファイルを提出した最初のウェブ画面で行うことができます。
- 5) レポートファイルをうまくアップロードできない場合、その原因のほとんどは提出者本人の操作方の誤りにあります。しかしどうしてもアップロードできない場合は、担当教員に電子メール等で連絡し、別のレポート提出方法を相談するようにしてください。また**ファイルをアップロードできなかったことは、レポートの提出が遅れた理由にはなりません**。レポートの作成と提出は、十分に余裕を持って行うことが必要です。

他にも、ウェブ画面上で直接文章を書き込み、課題を提出する方法である「**オンラインテキスト**」もありますが、提出がきちんと行われたかどうかを必ず確認してください。

なおCodexにおける課題提出法の一つである「**課題**」について、例を挙げながら具体的な操作方法を示します。

※ 説明図は実際の画面と異なる場合があります。

- (1) レポート提出に関するリンクをクリックすると、課題を追加（提出）する画面が表示されますので、「課題を追加する」ボタンをクリックします。

提出ステータス

提出ステータス	未提出
評定ステータス	未評定
終了日時	2016年 02月 1日(月曜日) 00:00
残り時間	6日 5時間
最終更新日時	2016年 01月 25日(月曜日) 18:18
提出コメント	▶ コメント (0)

あなたの提出に変更を加えます。

- (2) 四角い点線の枠が表示されるので、その中に提出するレポートファイルをドラッグ&ドロップし、「変更を保存する」ボタンをクリックします。

ファイル提出

新しいファイルの最大サイズ: 20MB / 最大添付: 1

▶ ファイル

ここにドラッグ&ドロップして、ファイルを追加することができます。

- (3) 課題の提出画面に戻ります。「ファイル提出」と書かれた欄に表示されたファイル名とそのアイコンを確認します。アップロードした課題ファイルの名前とアイコンが表示されていれば、提出完了です。

提出ステータス

提出ステータス	評定のため提出済み
評定ステータス	未評定
終了日時	2016年 02月 1日(月曜日) 00:00
残り時間	6日 5時間
最終更新日時	2016年 01月 25日(月曜日) 18:21
ファイル提出	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 5px;"> Kadai_Morikawa.pdf </div>
提出コメント	▶ コメント (0)

あなたの提出に変更を加えます。

なお、「最終更新日時」の欄に表示された日時が、課題を提出した日時になります。
 また「課題を提出する」ボタンが表示されている場合は、課題の提出は未だ完了していません。注意してください。

XIV カリキュラムについて

1 分子生命科学科 カリキュラムマップ^o (2017年度以降入学生用)

大分類		高校程度の内容		導入科目、教養科目、基礎科学系科目や語学系科目の基礎的内容				基礎科学系科目や語学系科目の基礎的～発展的な内容、応用科学系科目の基礎的な内容			
		リメディアル科目		1年				2年			
中分類	小分類	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名
		1 専門的総合力を高める科目、卒業研究関連科目	1 実習、研究関連					1111	基礎生命科学実習 I (物理)	2111	基礎生命科学実習 II (通年)
						1112	基礎生命科学実習 I (化学)				
						1113	基礎生命科学実習 I (生物)				
										2112	地学実習
2 演習				1121	基礎生命科学演習 I	1122	基礎生命科学演習 II	2121	生命科学演習 I	2122	生命科学演習 II
3 特別演習・研究指導								2131	生命科学特別演習 II (通年)		
2 学修動機や汎用的能力を高める科目	1 導入教育			1211	分子生命科学ゼミナール						
				1212	分子生命科学概論						
	2 キャリア教育			1221	生命科学と社会					2221	生命科学と社会 (卒業生に学ぶ未来)
3 生命倫理・科学倫理他											
3 教養・語学力を高める科目	1 英語	0311	大学英語入門	1311	Academic English I	1312	Academic English II	2311	Academic English III	2312	Academic English IV
	2 科学英語							2321	English and Life Sciences in the USA (通年)		
	3 第二外国語				1331	ドイツの言語文化 (通年)					
					1332	フランスの言語文化 (通年)					
					1333	中国の言語文化 (通年)					
	4 言語科学と言語文化			1341	言語科学ゼミナール			2341	言語科学概論※		
	5 人文学系他				1351	法学 (日本国憲法)	1353	経済学			
				1352	哲学	1354	心理学※				
				1356	教育学	1355	科学史				
6 健康			1361	スポーツ I					2361	スポーツ II	
4 数学・情報科学系の科目	1 数学	0411	初等数学	1411	数学 I	1412	数学 II	2411	統計学		
	2 情報科学			1421	情報科学 I	1422	情報科学 II	2412	応用数学		
5 物理系・生物物理系の科目	1 物理学	0511	初等物理学	1511	物理学	1512	生命物理学				
	2 生物物理・物理化学					1513	基礎物理学※				
	3 放射線							2531	放射化学		
									2521	エネルギー反応論	

必修科目
 選択科目
 自由科目・教職科目

分子生物学や化学などの基礎学問を基盤とした先端科学の研究を背景に、その基礎を育てることを主眼とします。医科学分野、応用生命分野、薬学分野についても学べるカリキュラムで、基礎学問を基盤として、科学技術の発展と社会に貢献できる人材を育成します。

1、2年次は基礎科学を重視し、生命科学や薬科学の基礎となる領域を必修科目によりしっかり学修します。2、3年次はくすり・遺伝子・細胞・脳など、生命を支えるしくみを学びます。専門選択科目に学科指定を設けていないので、応用生命科学や医科学領域の科目も含めて、各人の興味や方向性に合わせて履修計画を立てることができます。

基礎科学系科目、語学系科目、 応用科学系科目の発展的な内容		高度な科目 (卒業論文研究、卒業研究関連科目)				卒業時 修得できる能力	ディプロマ・ ポリシー
3年		4年					
前期	後期	前期	後期				
ナンバ リング	科目名	ナンバ リング	科目名	ナンバ リング	科目名	ナンバ リング	科目名
3111	分子生命科学実習 (通年)	4111	卒業論文研究 (通年)				
		4121	生命科学特講 (通年)				
3131	生命科学特別演習Ⅲ (通年)	4131	ゼミナール (通年)				
3221	生命科学と社会 (応用演習)						
3222	インターンシップ	3222	インターンシップ				
		3231	生命科学知財論			4231	生命と倫理
3311	言語とコミュニケーション論Ⅰ	3312	言語とコミュニケーション論Ⅱ				
3321	English for Science I	3322	English for Science II				
		3351	外国文学				
3421	バイオ情報科学						
3521	生物物理学						
3531	放射線生物影響論						

1 分子生命科学科 カリキュラムマップ (2017年度以降入学生用) 続き

履修要項

大分類		高校程度の内容		導入科目、教養科目、基礎科学系科目や語学系科目の基礎的内容		基礎科学系科目や語学系科目の基礎的～発展的な内容、応用科学系科目の基礎的な内容					
		リメディアル科目		1年		2年					
				前期	後期	前期	後期				
中分類	小分類	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名		
6 化学系の科目	1 無機化学・一般化学	0611	初等化学	1611	化学	1612	生物無機化学				
	2 有機化学					1613	基礎化学※				
				1621	有機化学 I	1622	有機化学 II	2621	生物有機化学	2622	天然医薬品化学
3 分析化学							2631	分析化学			
7 生化学・分子生物学系の科目	1 物質生化学・タンパク質					1711	生体物質学	2711	酵素学		
	2 代謝生化学								2721	代謝生化学 I	
										2722	代謝生化学 II
3 遺伝子の構造と機能					1731	遺伝生化学	2731	分子遺伝学	2732	遺伝子制御学	
8 生物学系の科目	1 生物学	0811	初等生物学	1811	生物学	1812	微生物学	2811	植物生理学		
	2 細胞生物学							2821	分子細胞生物学 I	2822	分子細胞生物学 II
	3 生理学・解剖学							2831	生理学		
								2832	解剖学		
	4 発生生物学										
5 神経生物学											
9 応用生命科学系、生命医科学系の科目	1 地学・環境保全			1911	地球環境論				2911	応用生物工学	
	2 生態学								2912	地学	
									2921	生態学概論	
	3 環境衛生							2931	生活と環境の科学		
	4 遺伝子工学								2941	遺伝子工学 I	
	5 バイオテクノロジー								2951	実験動物学	
	6 薬科学								2961	創薬概論	
	7 医科学								2971	医療計測学	
	8 免疫学										
9 公衆衛生学											
A 教職課程科目	1 教育の基礎的理解に関する科目					1A11	教職概論	2A21	教育原理		
	2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目							2A22	教育行政学		
									2A33	教育課程論	
							1A31	教育方法・技術論	2A31	特別活動指導論	2A32
	3 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)									2A34	総合的な学習の時間の指導法
4 教育実践に関する科目											
5 大学が独自に設定する科目											

必修科目
 選択科目
 自由科目・教職科目

基礎科学系科目、語学系科目、 応用科学系科目の発展的な内容				高度な科目 (卒業論文研究、卒業研究関連科目)				卒業時 修得できる能力	ディプロマ・ ポリシー
3 年				4 年					
前期		後期		前期		後期			
ナンバ リング	科目名	ナンバ リング	科目名	ナンバ リング	科目名	ナンバ リング	科目名		
3621	医薬品合成化学							専門能力 (化学領域)	
		3622	ケミカルバイ オロジー						
3631	応用分析化学 I	3632	応用分析化学 II						
3711	蛋白質工学								
3721	代謝医科学							専門能力 (生化学・分子生物学領域)	
3731	ゲノム医科学								
		3811	多様性生物学						
		3812	進化系統学						
3831	環境生理学							専門能力 (生物学領域)	
3841	発生生物学	3842	発生再生医学						所属学部・学科に おける体系的な学 習や、学科共通・ 特有な教育を通し て、社会において 多様な課題を解決 できる能力。
3851	神経生物学 I	3852	神経生物学 II						
3911	環境工学								
3921	環境生態学								
		3931	環境毒性学						
		3932	産業衛生管理学						
		3941	遺伝子工学 II・ 遺伝子治療学						
3951	応用微生物学	3952	資源生物学					専門能力 (応用生命科学・生命医科学・ 薬科学領域)	
3961	薬理学概論	3962	神経薬理学						
3971	生命医科学特講	3973	腫瘍医科学						
3972	分子病理学								
3981	免疫学	3982	炎症医科学						
3991	食品衛生学	3992	感染医科学						
3A21	教育心理学								
3A22	特別支援教育								
		3A41	生徒進路指導論						
		3A42	教育相談						
3A31	理科教育法 I								
3A32	理科教育法 II								
3A33	理科教育法 III (通年)								
				4A51	教育実習 I				
				4A52	教育実習 II				
						4A61	教職実践演習 (中・高)		
3A43	介護等体験 (通年)								

2 応用生命科学科 カリキュラムマップ (2017年度以降入学生用)

応用生命科学的視点から地球環境と生命を守る先端的な研究を背景に、その基礎を育てることを主眼とします。環境生物学の領域に加え、生物利用を指向した農業や工学分野についても学べるカリキュラムで、“生物の力”を応用する研究を通して、安全・安心な地球を守ることでできる人材を育成します。

大分類		高校程度の内容		導入科目、教養科目、基礎科学系科目や語学系科目の基礎的内容				基礎科学系科目や語学系科目の基礎的～発展的な内容、応用科学系科目の基礎的な内容			
		リメディアル科目		1年		2年		前期		後期	
中分類	小分類	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名
1 専門的総合力を高める科目、卒業研究関連科目	1 実習、研究関連				1111	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)	2111	基礎生命科学実習Ⅱ(通年)			
					1112	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)					
					1113	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)					
	2 演習		1121	基礎生命科学演習Ⅰ	1122	基礎生命科学演習Ⅱ	2121	生命科学演習Ⅰ	2122	生命科学演習Ⅱ	
3 特別演習・研究指導							2131	生命科学特別演習Ⅱ(通年)			
2 学修動機や汎用的能力を高める科目	1 導入教育		1211	応用生命科学ゼミナール							
			1212	応用生命科学概論							
	2 キャリア教育		1221	生命科学と社会					2221	生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)	
3 生命倫理・科学倫理他											
3 教養・語学力を高める科目	1 英語	0311	大学英語入門	1311	Academic English I	1312	Academic English II	2311	Academic English III	2312	Academic English IV
	2 科学英語							2321	English and Life Sciences in the USA(通年)		
	3 第二外国語				1331	ドイツの言語文化(通年)					
					1332	フランスの言語文化(通年)					
					1333	中国の言語文化(通年)					
	4 言語科学と言語文化			1341	言語科学ゼミナール			2341	言語科学概論※		
	5 人文学系他			1351	法学(日本国憲法)	1353	経済学				
			1352	哲学	1354	心理学※					
			1356	教育学	1355	科学史					
6 健康			1361	スポーツⅠ					2361	スポーツⅡ	
4 数学・情報科学系の科目	1 数学	0411	初等数学	1411	数学Ⅰ	1412	数学Ⅱ	2411	統計学		
	2 情報科学			1421	情報科学Ⅰ	1422	情報科学Ⅱ	2412	応用数学		
5 物理系・生物物理系の科目	1 物理学	0511	初等物理学	1511	物理学	1512	生命物理学				
						1513	基礎物理学※				
	2 生物物理・物理化学								2521	エネルギー反応論	
3 放射線							2531	放射化学			

□ 必修科目 ■ 学科指定選択科目 □ 選択科目 ■ 自由科目・教職科目

基礎を学修した後、2、3年次においては、食品・微生物・エネルギーなど、生物の多様性や生命をはぐくむ環境科学・応用生命科学の領域を学びます。化学から生態へと広がる領域に興味や希望に応じて学ぶことができるように、多数の学科指定選択科目を設定しています。

基礎科学系科目、語学系科目、 応用科学系科目の発展的な内容				高度な科目 (卒業論文研究、卒業研究関連科目)				卒業時 修得できる能力	ディプロマ・ ポリシー
3 年				4 年					
前 期		後 期		前 期		後 期			
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名		
3111	応用生命科学実習 (通年)			4111	卒業論文研究 (通年)			専門技術力・情報収集力・情報分析力 プレゼンテーション能力・課題発見能力 課題解決能力・論理的思考力 批判的思考力・創造的思考力・文章力 情報収集力・情報分析力・英語力・読解力 プレゼンテーション能力・課題解決能力・論理的思考力	4年間にわたる「講義」、「実習」及び「演習」での学習や、卒業論文等の作成を通じて高度の専門的知識・技術と現代的素養。
				4121	生命科学特講 (通年)				
3131	生命科学特別演習Ⅲ (通年)			4131	ゼミナール (通年)				
								汎用的能力・論理的思考力 多角的な視点で物事を考える能力 プレゼンテーション能力 (生命科学領域)	解決すべき課題に対して、それを解決するための適切な手法を選択できるような「課題解決能力」を持ち、生命科学の広範囲な学問領域に対応できる人間性と人間性。
3221	生命科学と社会 (応用演習)								
3222	インターンシップ	3222	インターンシップ						
		3231	生命科学知財論			4231	生命と倫理		
3311	言語とコミュニケーション論Ⅰ	3312	言語とコミュニケーション論Ⅱ					英語力・読解力・プレゼンテーション力 コミュニケーション能力・異文化理解力 様々な言語力 異文化理解力 コミュニケーション能力	カリキュラムの履修を通して、豊かな人間性形成の基本と基礎的な学力を養い、専門領域を超えて課題を探索する姿勢。
3321	English for Science I	3322	English for Science II						
		3351	外国文学						
								幅広い教養 多角的な視点で物事を考える能力 健康な体作り 数理能力 IT力	所属学部・学科における体系的な学習や、学科共通・特有用な教育を通して、社会において多様な課題を解決できる能力。
3421	バイオ情報科学								
3521	生物物理学								
3531	放射線生物影響論								

2 応用生命科学科 カリキュラムマップ(2017年度以降入学生用) 続き

履修要項

大分類		高校程度の内容		導入科目、教養科目、基礎科学系科目や語学系科目の基礎的内容		基礎科学系科目や語学系科目の基礎的～発展的な内容、応用科学系科目の基礎的な内容						
		リメディアル科目		1 年				2 年				
				前期		後期		前期	後期			
中分類	小分類	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名			
6 化学系の科目	1 無機化学・一般化学	0611	初等化学	1611	化学	1612	生物無機化学					
	2 有機化学					1613	基礎化学※					
				1621	有機化学 I	1622	有機化学 II	2621	生物有機化学	2622	天然医薬品化学	
3 分析化学							2631	分析化学				
7 生化学・分子生物学系の科目	1 物質生化学・タンパク質					1711	生体物質学	2711	酵素学			
	2 代謝生化学									2721	代謝生化学 I	
											2722	代謝生化学 II
3 遺伝子の構造と機能					1731	遺伝生化学	2731	分子遺伝学	2732	遺伝子制御学		
8 生物学系の科目	1 生物学	0811	初等生物学	1811	生物学	1812	微生物学	2811	植物生理学			
	2 細胞生物学							2821	分子細胞生物学 I	2822	分子細胞生物学 II	
	3 生理学・解剖学							2831	生理学			
								2832	解剖学			
	4 発生生物学											
5 神経生物学												
9 応用生命科学系、生命医科学系の科目	1 地学・環境保全			1911	地球環境論					2911	応用生物工学	
											2912	地学
	2 生態学									2921	生態学概論	
	3 環境衛生							2931	生活と環境の科学			
	4 遺伝子工学									2941	遺伝子工学 I	
	5 バイオテクノロジー									2951	実験動物学	
	6 薬科学									2961	創薬概論	
	7 医科学									2971	医療計測学	
	8 免疫学											
9 公衆衛生学												
A 教職課程科目	1 教育の基礎的理解に関する科目					1A11	教職概論	2A21	教育原理			
								2A22	教育行政学			
								2A33	教育課程論			
	2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						1A31	教育方法・技術論	2A31	特別活動指導論	2A32	道徳教育指導論
											2A34	総合的な学習の時間の指導法
3 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)												
4 教育実践に関する科目												
5 大学が独自に設定する科目												

 必修科目
 学科指定選択科目
 選択科目
 自由科目・教職科目

基礎科学系科目、語学系科目、 応用科学系科目の発展的な内容				高度な科目 (卒業論文研究、卒業研究関連科目)				卒業時 修得できる能力	ディプロマ・ ポリシー
3 年				4 年					
前 期		後 期		前 期		後 期			
ナンバ リング	科 目 名	ナンバ リング	科 目 名	ナンバ リング	科 目 名	ナンバ リング	科 目 名		
								専門能力 (化学領域)	所属学部・学科における体系的な学習や、学科共通・特有益な教育を通して、社会において多様な課題を解決できる能力。
3621	医薬品合成化学								
		3622	ケミカルバイオロジー						
3631	応用分析化学 I	3632	応用分析化学 II						
3711	蛋白質工学							専門能力 (生化学・分子生物学領域)	
3721	代謝医科学								
3731	ゲノム医科学								
		3811	多様性生物学					専門能力 (生物学領域)	
		3812	進化系統学						
3831	環境生理学								
3841	発生生物学	3842	発生再生医学						
3851	神経生物学 I	3852	神経生物学 II						
3911	環境工学							専門能力 (応用生命科学・生命医科学・ 薬科学領域)	
3921	環境生態学								
		3931	環境毒性学						
		3932	産業衛生管理学						
		3941	遺伝子工学 II・ 遺伝子治療学						
3951	応用微生物学	3952	資源生物学						
3961	薬理学概論	3962	神経薬理学						
3971	生命医科学特講	3973	腫瘍医科学						
3972	分子病理学								
3981	免疫学	3982	炎症医科学						
3991	食品衛生学	3992	感染医科学						
3A21	教育心理学							実践的指導の基礎力	
3A22	特別支援教育								
		3A41	生徒進路指導論						
		3A42	教育相談						
3A31	理科教育法 I								
3A32	理科教育法 II								
3A33	理科教育法 III (通年)								
				4A51	教育実習 I				
				4A52	教育実習 II				
				4A61	教職実践演習 (中・高)				
3A43	介護等体験 (通年)								

3 生命医科学科 カリキュラムマップ (2017年度以降入学生用)

基礎医学とその医療への応用領域における先端的研究を背景に、医科学の基礎を育てることを主眼とします。新医師臨床研修制度によって臨床医学分野の研究者が減少している中、豊富な医学的知識を有する研究者・技術者を養成することを旨としたカリキュラムで、生命科学と医療の現場をつなぐ人材、疾患の新たな治療・診断法を目指し人類

履修要項

大分類		高校程度の内容		導入科目、教養科目、基礎科学系科目や語学系科目の基礎的内容				基礎科学系科目や語学系科目の基礎的～発展的な内容、応用科学系科目の基礎的な内容			
		リメディアル科目		1年				2年			
中分類	小分類	ナンバリング	科目名	前期		後期		前期		後期	
				ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名
1 専門的総合力を高める科目、卒業研究関連科目	1 実習、研究関連					1111	基礎生命科学実習Ⅰ(物理)	2111	基礎生命科学実習Ⅱ(通年)		
							1112	基礎生命科学実習Ⅰ(化学)			
							1113	基礎生命科学実習Ⅰ(生物)			
	2 演習			1121	基礎生命科学演習Ⅰ	1122	基礎生命科学演習Ⅱ	2121	生命科学演習Ⅰ	2122	生命科学演習Ⅱ
	3 特別演習・研究指導							2131	生命科学特別演習Ⅱ(通年)		
2 学修動機や汎用的能力を高める科目	1 導入教育			1211	生命医科学ゼミナール						
				1212	生命医科学概論						
	2 キャリア教育			1221	生命科学と社会					2221	生命科学と社会(卒業生に学ぶ未来)
	3 生命倫理・科学倫理他										
3 教養・語学力を高める科目	1 英語	0311	大学英語入門	1311	Academic English I	1312	Academic English II	2311	Academic English III	2312	Academic English IV
	2 科学英語							2321	English and Life Sciences in the USA(通年)		
	3 第二外国語				1331	ドイツの言語文化(通年)					
					1332	フランスの言語文化(通年)					
					1333	中国の言語文化(通年)					
	4 言語科学と言語文化			1341	言語科学ゼミナール			2341	言語科学概論※		
	5 人文学系他				1351	法学(日本国憲法)	1353	経済学			
				1352	哲学	1354	心理学※				
				1356	教育学	1355	科学史				
6 健康			1361	スポーツⅠ					2361	スポーツⅡ	
4 数学・情報科学系の科目	1 数学	0411	初等数学	1411	数学Ⅰ	1412	数学Ⅱ	2411	統計学		
								2412	応用数学		
2 情報科学			1421	情報科学Ⅰ	1422	情報科学Ⅱ			2421	プログラミング基礎	
5 物理系・生物物理系の科目	1 物理学	0511	初等物理学	1511	物理学	1512	生命物理学				
						1513	基礎物理学※				
	2 生物物理・物理化学								2521	エネルギー反応論	
3 放射線							2531	放射化学			

必修科目
 学科指定選択科目
 選択科目
 自由科目・教職科目

の健康と福祉に貢献できる人材を育成します。

基礎を学修した後、2、3年次では生命医科学領域の必修科目や学科指定選択科目を通して、難病・がんなど病気のしくみや、免疫、再生医療などを学びます。

基礎科学系科目、語学系科目、 応用科学系科目の発展的な内容				高度な科目 (卒業論文研究、卒業研究関連科目)				卒業時 修得できる能力	ディプロマ・ ポリシー
3 年				4 年					
前期		後期		前期		後期			
科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名	科目名		
3111	生命医科学実習 (通年)			4111	卒業論文研究 (通年)			専門技術力・情報収集力・情報分析力 プレゼンテーション能力・課題発見能力 課題解決能力・論理的思考力 批判的思考力・創造的思考力・文章力 情報収集力・情報分析力・英語力・読解力 プレゼンテーション能力・課題解決能力・論理的思考力	4年間にわたる「講義」、「実習」及び「演習」での学習や、卒業論文等の作成を通じて高度の専門的知識・技術と現代的素養。
				4121	生命科学特講 (通年)				
3131	生命科学特別演習Ⅲ (通年)			4131	ゼミナール (通年)				
3221	生命科学と社会 (応用演習)							汎用的能力・論理的思考力 多角的な視点で物事を考える能力 プレゼンテーション能力 (生命科学領域)	解決すべき課題に対して、それを解決するための適切な手法を選択できるような「課題解決能力」を持ち、生命科学の広範囲な学問領域に対応できる人間性と人間性。
3222	インターンシップ	3222	インターンシップ						
		3231	生命科学知財論			4231	生命と倫理		
3311	言語とコミュニケーション論Ⅰ	3312	言語とコミュニケーション論Ⅱ					英語力・読解力・プレゼンテーション力 コミュニケーション能力・異文化理解力 様々な言語力 異文化理解力 コミュニケーション能力 幅広い教養 多角的な視点で物事を考える能力 健康な体作り 数理能力 IT力	カリキュラムの履修を通して、豊かな人間性形成の基本と基礎的な学力を養い、専門領域を超えて課題を探索する姿勢。
3321	English for Science I	3322	English for Science II						
		3351	外国文学						
3421	バイオ情報科学							専門能力 (物理・物理化学・生物物理領域)	所属学部・学科における体系的な学習や、学科共通・特有用な教育を通して、社会において多様な課題を解決できる能力。
3521	生物物理学								
3531	放射線生物影響論								

3 生命医科学科 カリキュラムマップ (2017年度以降入学生用) 続き

履修要項

大分類		高校程度の内容		導入科目、教養科目、基礎科学系科目や語学系科目の基礎的内容		基礎科学系科目や語学系科目の基礎的～発展的な内容、応用科学系科目の基礎的な内容					
		リメディアル科目		1 年				2 年			
				前期		後期		前期	後期		
中分類	小分類	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名	ナンバリング	科目名		
6 化学系の科目	1 無機化学・一般化学	0611	初等化学	1611	化学	1612	生物無機化学				
	2 有機化学					1613	基礎化学※				
				1621	有機化学 I	1622	有機化学 II	2621	生物有機化学	2622	天然医薬品化学
3 分析化学							2631	分析化学			
7 生化学・分子生物学系の科目	1 物質生化学・タンパク質					1711	生体物質学	2711	酵素学		
	2 代謝生化学								2721	医科生化学 I	
										2722	医科生化学 II
3 遺伝子の構造と機能						1731	遺伝生化学	2731	分子遺伝学	2732	遺伝子制御学
8 生物学系の科目	1 生物学	0811	初等生物学	1811	生物学	1812	微生物学	2811	植物生理学		
	2 細胞生物学							2821	分子細胞生物学 I	2822	分子細胞生物学 II
	3 生理学・解剖学							2831	生理学		
								2832	解剖学		
	4 発生生物学										
5 神経生物学											
9 応用生命科学系、生命医科学系の科目	1 地学・環境保全			1911	地球環境論					2911	応用生物工学
	2 生態学									2912	地学
										2921	生態学概論
	3 環境衛生							2931	生活と環境の科学		
	4 遺伝子工学									2941	遺伝子工学 I
	5 バイオテクノロジー									2951	実験動物学
	6 薬科学									2961	創薬概論
	7 医科学									2971	医療計測学
	8 免疫学										
9 公衆衛生学											
A 教職課程科目	1 教育の基礎的理解に関する科目					1A11	教職概論	2A21	教育原理		
	2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目							2A22	教育行政学		
								2A33	教育課程論		
							1A31	教育方法・技術論	2A31	特別活動指導論	2A32
	3 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)									2A34	総合的な学習の時間の指導法
4 教育実践に関する科目											
5 大学が独自に設定する科目											

必修科目
 学科指定選択科目
 選択科目
 自由科目・教職科目

基礎科学系科目、語学系科目、 応用科学系科目の発展的な内容				高度な科目 (卒業論文研究、卒業研究関連科目)				卒業時 修得できる能力	ディプロマ・ ポリシー
3 年				4 年					
前 期		後 期		前 期		後 期			
ナンバ リング	科 目 名	ナンバ リング	科 目 名	ナンバ リング	科 目 名	ナンバ リング	科 目 名		
3621	医薬品合成化学							専門能力 (化学領域)	
		3622	ケミカルバイオロジー						
3631	応用分析化学 I	3632	応用分析化学 II						
3711	蛋白質工学								
3721	代謝医科学							専門能力 (生化学・分子生物学領域)	
3731	ゲノム医科学								
		3811	多様性生物学						
		3812	進化系統学						
3831	環境生理学							専門能力 (生物学領域)	
3841	発生生物学	3842	発生再生医学						
3851	神経生物学 I	3852	神経生物学 II						
3911	環境工学								
3921	環境生態学								
		3931	環境毒性学						
		3932	産業衛生管理学						
		3941	遺伝子工学 II・ 遺伝子治療学					専門能力 (応用生命科学・生命医科学・ 薬科学領域)	
3951	応用微生物学	3952	資源生物学						
3961	薬理学概論	3962	神経薬理学						
3971	生命医科学特講	3973	腫瘍医科学						
3972	分子病理学								
3981	免疫学	3982	炎症医科学						
3991	食品衛生学	3992	感染医科学						
3A21	教育心理学								
3A22	特別支援教育								
		3A41	生徒進路指導論						
		3A42	教育相談						
3A31	理科教育法 I							実践的指導の基礎力	
3A32	理科教育法 II								
3A33	理科教育法 III (通年)								
				4A51	教育実習 I				
				4A52	教育実習 II				
						4A61	教職実践演習 (中・高)		
3A43	介護等体験 (通年)								